

2023年度

総 会 資 料



2023.1.17

一般社団法人 都城青年会議所

一般社団法人 都城青年会議所

2023年度 1月定時総会式次第

【日時】 2023年1月17日(火) 18:00より

【場所】 ホテル中山荘

【議事の部】

1. 物故会員黙祷
2. 点鐘並びに開会宣言
3. 国歌斉唱
4. JCソング斉唱
5. JCIクリード唱和
6. JCIMission並びにJCIVision唱和
7. JC宣言文朗読並びに綱領唱和
8. 育LOM宣言
9. 理事長挨拶
10. 総会議事進行
 - 一、議長選任
 - 二、定足数確認
 - 三、議事録作成者並びに署名者の指名
 - 四、議事
 - 第1号議案
2022年度 事業報告並びに全体収支決算(案)承認の件
監査報告
 - 第2号議案
2023年度 全体収支予算(案)承認の件
 - 第3号議案
2023年度 出向者(案)承認の件
 - 第4号議案
その他
 - 五、その他
11. 総会議事閉会

【披露の部】

12. 顧問・来賓・賛助会員入場
13. 2022年度事業結果報告
14. 直前理事長挨拶
15. 新理事長紹介
16. 新旧理事長引継ぎセレモニー < バッジ・プレジデンシャルリース伝達 >
「祈りと誓いのタイムカプセル」の鍵伝承式
17. 理事長挨拶
18. 顧問・来賓・賛助会員紹介
19. 顧問祝辞
20. 2023年度事業計画紹介
21. ベビーファースト宣言
22. 閉会宣言並びに点鐘

2022 年度 事業報告並びに全体収支決算（案）

2022年度を振り返って



一般社団法人 都城青年会議所 第59代理事長 佐伯 浩文

新年あけましておめでとうございます。

先輩諸氏並びに現役会員の皆様、そして一般社団法人都城青年会議所の活動に携わって頂いた関係各位におきましては、健やかなる新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。旧年中は都城青年会議所の運動・活動に多大なるご理解とご支援・ご協力を賜りましたことに厚く御礼申し上げます。

2022年度は、『ともに学び、ともに成長しよう』をスローガンに掲げ、都城圏域の青年経済人の「学び舎」である都城青年会議所での活動を通じて、会員の皆様とともに学んでいきたい、そして会員の皆様にも学んで成長して頂きたいという思いで、取り組んで参りました。

一年間を振り返ってみますと、年明けから新型コロナウイルス（オミクロン株）の感染流行により、1月、2月はメンバーと直接会えず、WEBを利用した例会や会議等を余儀なくされ、悔しい思いをしながらも、しっかりと活動を行って参りました。しかし、3月には、宮崎県の蔓延防止等重点措置の解除とともに、感染予防対策をしっかりと行いながら、直接顔を合わせての会議や例会を実施致しました。それ以降は、行政としても経済活動を促進させるための政策が変わった事で、活動しやすい環境にも変わり、全て対面形式での活動を行って参りました。ただし、8月に開催予定であった盆地まつりは7月下旬に感染者数が再び急増したことによって、延期となりましたが、11月に開催する事が出来ました。そして、盆地まつりと同時開催で、新型コロナウイルスの影響を受け疲弊した飲食に関わる業者を支援し、地域を活性化させるために、餃子スマイルフェスタも開催出来ました。さらに、10月には一般社団法人都城観光協会主催の焼肉カーニバルと同日開催で、肉と焼酎のふるさと・みやこんじょ花火大会も実施し、焼肉カーニバルのステージで太鼓部会の演奏の機会も頂きました。11月には、島津発祥まつりも開催出来ました。このような大きなイベントが3年ぶりに開催出来た上に、多くの来場者にお越し頂いて、喜んで頂けたことを大変嬉しく思っています。また、日本青年会議所や九州地区協議会、宮崎ブロック協議会のほとんどの大きな大会や会議も現地開催され、参加させて頂く事も出来ました。この一年の中で、新型コロナウイルスの影響やロシアのウクライナ侵攻による戦争による原油高、さらに円安の影響も相まって物価高となり、会員の皆様にも厳しい一年であったと思いますし、急に大きなイベントが出来るようになった事で、計画、準備、段取り、協賛金集めなど多大な苦労があったかと思いますが、そのように目まぐるしく活動をする中で、多くの学ぶ事もあり、多くの成長の機会もあったと思います。

最後になりますが、歴史と伝統のある都城青年会議所の第59代理事長を務めさせて頂けたのも、先輩諸氏の皆様をはじめ、関係各位の皆様のご理解とご支援・ご協力の賜物であり、いつも支えて頂いたスタッフの皆様、都城青年会議所の事業計画を遂行して頂いた各委員長の皆様、委員長を支えて頂いたメンバーの皆様にご心から感謝申し上げます。また、本年は60周年を迎えますので、東迫理事長のもと、メンバーがより結束し、心躍る笑顔溢れる年になることを心よりご祈念申し上げます。

一年間、本当にありがとうございました。

2022年度スローガン

「ともに学び、ともに成長しよう」

<主な事業>

総務委員会

1月定時総会、選挙セミナー、7月定時総会、11月第1例会（都城青年会議所規則探究例会～これから入会してくる後輩達に、「JCI都城とは！」と語れる頼れる先輩になろう。サブテーマ長くてすみません～）、出向者報告会

経営力人間力委員会委員会

2月第1例会(宮崎ブロック協議会会長公式訪問例会)、6月第1例会（経営力向上例会～風が吹けば桶屋が儲かる～）、10月第1例会（人間力向上例会～日々是鍛錬～）

LOM活性化委員会

4月第1例会（LOM活性化例会～私たちは明日を生き残ることができるのか・・・ It's up to you～）、9月第1例会（通常例会）、12月第1例会（卒業式～One for all All for one～）

拡大広報委員会

3月第1例会（JCカップ～とこ豚19番ホール～）、7月第2例会（創立記念～ともに学び、ともに成長しよう～）、SNS発信事業

地域活性化委員会

5月第1例会（インスタ活用セミナー～「インスタ難しい！」から「たのしい！」へ～）、8月第1例会（餃子スマイルフェスタ～Re:スタート～）、年間市民ライター活動

組織運営グループ・事務局・財政局

全体把握・運営、全体予算及び全体決算

<各種大会への参加>

1月京都会議、宮崎JCフェスタ2022in宮崎、7月サマーコンファレンス、九州コンファレンス2022in糸島、全国大会おおいた大会、12月北蔚山青年会議所訪問

<支援関連事業>

いきいき大淀川クリーン大作戦（中止）、焼肉カーニバル、盆地まつり、島津発祥まつり

総務委員会

委員長 東 信一郎
副委員長 森 春 允
委員 岩 満 嵩 介 ・ 江夏 徳次郎 ・ 神 脇 清 太
黒 木 裕 二 ・ 田ノ上 素 世 ・ 築 地 史 次
三 角 景 志

【事業報告】

総務委員会では、1月定時総会、7月定時総会、11月第1例会を実施させていただきました。

1月定時総会は、2022年度都城青年会議所の船出をしっかりとしたものにするという気持ちを持って構築していきました。新型コロナウイルスの影響により直前でZOOM開催への変更を余儀なくされましたが委員会で創りあげてきたものをある程度入れ込むことができ臨機応変な対応が取れたのではないかと思います。7月定時総会は次年度の体制を決める場ですので厳粛に執り行うべく実施しましたが詰め甘さなどがあり皆さんにはご迷惑をおかけしてしまいました。そうした中でも委員会メンバーが現場力を発揮してくれて何とか終わることが出来ました。11月第1例会につきましては私が委員長をさせていただく際に実施したいと考えていた「定款・諸規程」に関する例会を実施させていただきました、内容が堅いだけにどのようにすれば飽きさせずに最後まで参加してもらえるのか？また、今後の都城青年会議所にとって多少なりとも役に立つ内容にするには何をすればいいのか？を深夜にまでおよぶ委員会を重ね創りあげました。手前味噌ながら、この例会が「定款・諸規程」に触れるきっかけになってくれたのではないかと思います。

最後になりますが室長の鎌田専務、委員会メンバーに支えていただき無事1年間を終えることが出来ましたありがとうございました。



経営力人間力向上委員会

委員長 宮脇 佳亨
副委員長 枇杷木 由香理
委員 鬼東 麻里 ・ 黒木 俊行 ・ 小路 明洋
東郷 和利 ・ 温水 浩太

【事業報告】

経営力人間力委員会では、2月に宮崎ブロック会長公式訪問例会、6月に経営力に関する例会、10月に人間力に関する例会を実施しました。

2月の宮崎ブロック会長公式訪問例会は宮崎ブロック協議会の1年間の運動・事業の内容を知ることということで実施しました。例会はCOVID-19の影響ということでZOOMを利用したオンライン形式での開催となりましたが、オンラインでもすむような内容でしたので目的は達成できたと思います。

6月の経営力例会ではメンバーが自社の地域や社会に対する貢献を再確認、再考することを目的で実施しました。それぞれの会社の事業が地域の方々に対してどのような手助けをしているのかを、ペンと紙を用意してメンバーにできるだけ多く書き出してもらいました。またそれをグループで発表する時間を設けるなどして、互いの活動・事業を知る機会を作り、個と地域との関係を考えることのできる例会にすることができたと思います。

10月の人間力例会ではメンバーが継続的かつ意識的に人間力を高めることを目的で実施しました。「積小為大」「将来への時間」「メンター」の3つが青年会議所活動と繋がる部分があることをメンバーに伝えました。またその上で何か新しい習慣を初めてみたり、習慣を見直したりしませんかという提案をさせていただきました。メンバーの自己成長が加速する例会にすることができたと思います。

その他にも年間を通してLDアワーの実施、7月にはサマーコンファレンス2022に参加、9月から10月にかけては焼肉カーニバル支援窓口と、年間を通してとても充実した委員会活動ができています。今年のスローガン「ともに学び、ともに成長しよう」にあるように委員会メンバーと共に私自身も学び、成長する仕組みを体感し、成長する楽しみを実感した1年だったと思います。最後になりますが、枇杷木副委員長をはじめとする経営力人間力委員会のメンバーの皆様、1年間ありがとうございました。自己成長を加速させましょう。



LOM活性化委員会

委員長 宮島勇太
副委員長 津貫嗣宝
委員 岩元隆道・榎田祐介・國分葉月
西 隆弘・福留隼人・又木啓仁

【事業報告】

2022年度LOM活性化委員会では昨年までと違い新型コロナウイルス感染の影響はあまりなく、活発に事業に取り組むことができました。委員会メンバーはもちろん、他の委員会メンバーと協力して例会を実行できたことは本当に貴重な時間であったと感じました。

まず、4月に行った例会はLOM活性化を図る例会を行いました。コンセンサスゲームをオリジナル化したゲームで各チーム分かれてのメンバーの合意形成を目的とした事業でした。委員会メンバーとは動画作成やゲームの問題作成など協力して行えたこと、またこの例会に参加したメンバーも積極的にゲームに参加して楽しい時間を過ごせたのではないかと思います。次に行ったのは9月の家族交流例会でした。この例会は残念ながら台風14号の影響で中止となりましたが、事業構築の際に家族の方々に感謝を伝える方法を委員会メンバーと話し合うことができ良かったと思いました。また今回は料理という手法でピザ作りを計画しましたが、ピザ生地から作る場所から計画していたので滅多にできないことで、さらにそれを家族で行うことが非常に良い経験だと思いました。また12月に行った卒業式では11名の卒業生を最後の例会として盛大に行いました。委員会メンバーはもちろん、他の委員会メンバーと協力しJC生活最後のイベントとして記憶に残る日になったと思いました。卒業生の皆さんおめでとうございます。そして私が一番メンバーに伝えなかったことがその日その日に仲間と共に過ごした時間というもの現場にいた人しか分かりません。参加した人は何かしらの経験値を得ていますが、参加していないと経験値ゼロです。より多くの現役メンバーに経験値を積んでいただきたいと思いました。

最後に本年度は事業計画のすべてを達成することは出来ませんでした。委員会メンバーや他の現役メンバーと委員会や例会を通じて大切な時間を過ごせたことを本当に感謝しています。何事も楽しんで活動に取り組みましょう。



拡大広報委員会

委員長 山本 勇介
副委員長 石井 達也
委員 久保 隆之 ・ 坂下 真太郎 ・ 常盤 尚輝
原口 丈太郎 ・ 森山 睦史 ・ 吉留 芳恵

【事業報告】

2022年度拡大広報委員会では2つの例会を行いました。まず、3月第1例会会員拡大例会です。新型コロナウイルスの感染拡大により、開催が危ぶまれましたが開催を決断し、宮崎県中小企業同友会、都城観光協会、都城北ロータリークラブ、都城商工会議所青年部、三股町青年協議会きずな、都城JCシニアクラブ、拡大対象者と多くの方に参加をしていただきました。新型コロナの影響があったものの感染対策を追加で強化し団体交流会を実施することができ、各種団体との情報交換や団体アピールが出来たことにより絆を深め拡大につながる機会となりました。JC拡大の為の交流と、日頃のコロナ疲れを吹き飛ばす素晴らしい例会、懇親会を開催できました。最後の締めでは花火を打ち上げ、参加者の方々には最後まで楽しんでいただきました。コロナ禍の中でどの団体よりも先駆けて懇親会ができたのはすごくよかったです。実行委員長の坂下真太郎君ありがとうございました。

次に7月創立記念例会です。例会直前に新型コロナウイルス第7波の影響が出始め非常に厳しい環境でありましたが、無事にゴルフコンペ及び懇親会が開催できたことは、非常に良かったと思います。また実施できたことで、目的でもあった創立記念日を現役メンバーと45名のシニアと共に祝うことができ、懇親を深め現役メンバーの活動内容、今後のJC運動へのご理解をいただいた会になりました。実行委員長の常盤尚輝くんありがとうございました。

最後に拡大広報委員会メンバーの皆様に感謝申し上げます。1年間ありがとうございました。



地域活性化委員会

委員長 内村 卓哉
副委員長 堀之内 航
委員 塩浦 卓将 ・ 外村 純一 ・ 長友 麗斗
拜木 成太 ・ 前田 和範 ・ 丸山 亮馬

【事業報告】

本年、地域活性化事業として主に2つの例会を行いました。まず一つは都城飲食イベントです。背景として、未だ見通しの立たない新型コロナウイルスの感染拡大により、人の密集を恐れる社会変化が起き、人出の減少や休業要請という未曾有の事態により、都城の外食産業は大きな影響を受けました。都城の魅力の一つである「食」が不活性化することは避けなければいけません。先に述べた社会変化により疲弊した外食産業を活性化させるために、飲食店の最大のブランディングは食べていただく事であることから、テイクアウトというニーズのある形態を加味した上で、飲食イベントを開くべきと考えました。更に都城圏域内外から人を呼び込めるよう、2021年に宮崎市が日本一となった「餃子消費量日本一」という話題性を追加するため、餃子スマイルフェスタとして開催させていただきました。飲食業を主とした事業を構築する上で集客が肝要と考え、3年ぶりに開催の盆地まつりと同時開催としました。一度は新型コロナウイルス感染拡大による行動制限により延期となりましたが、11月に再構築し、結果としては多くの参加者が訪れ、参加された飲食店さんも満足する結果となり、今後の事業展開に明るい兆しが訪れる機会になったと考えます。

そしてもう一つは市民の情報発信力を高める事業を行いました。背景としては、事業を立ち上げる際に都城圏域の観光地をヒアリングした際に「都城は何もないよね。」という意見で落ち着くケースが多くありました。しかし実際にはそうではなく、住民の生活範囲や行動はパターン化しており、自身の興味のある情報以外に目を向ける機会が少ない、また本来魅力的な体験が常習化しているため、それを特筆して挙げる機会が少ないことが、都城圏域の魅力発信力を減衰させている要因と考えました。この為、都城圏域の市民を集めた市民ライターチームを立ち上げ、通常とは違うお店への来店、体験、観光をしていただき、都城圏域の魅力を探求する市民を増やすことを考えました。そしてInstagramのシステムを理解する事で情報発信力と、写真の構図や採光などの基本的な取り方をセミナーで市民に伝え、都城市民の情報発信力を高めることで恒常的な地域活性化を目指しました。セミナー自体では目標とする「新たな知見を得られた」人が多く、情報発信の難しさを理解することで、楽しさを感じて頂ける一助となったと考えます。

本年1年間、自己満足の事業にならないよう、当事者たちと意見を交換して構築したことで、僅かながら地域の課題解決に歩を進めることができたと考えています。本事業にご協力いただいた都城圏域の皆様、そして1年間走り続けることとなった地域活性化委員会委員会メンバーの皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。



野 球 部 会

部長 理事員
会幹 幹
部 営 計 会
副 運 會 部

東 森 三 津 石 江 久 國 下 温 福 丸 山
迫 角 貫 井 夏 保 分 徳 水 留 山 本
紀 春 景 嗣 達 徳 隆 葉 友 浩 隼 亮 勇
憲 允 志 宝 也 郎 之 月 樹 太 人 馬 介

道 樹 輔 文 世 郎 樹 太 惠
隆 直 興 浩 素 丈 博 勇 芳
元 田 木 伯 上 口 内 島 留
岩 鎌 黒 佐 田 原 堀 宮 吉

介 太 二 郎 揮 郎 航 亨
祐 清 裕 真 尚 信 一 佳
谷 脇 木 下 盤 内 脇
牛 神 黒 坂 常 東 堀 宮

哉 匠 洋 将 一 理 範 史
卓 明 卓 純 由 和 睦
村 田 路 浦 村 木 田 山
内 川 小 塩 外 枇 杷 前 森

※上記以外の正会員で野球部会の趣旨に賛同される方

【事業報告】

2022年度野球部会では、メンバーの親睦と健康増進に努めるとともに、楽しみながらも勝利にこだわることを目的として活動に取り組んで参りました。宮崎ブロック大会の結果は惜しくも準優勝という形で終わりましたが、一人ひとりが目標に向かって汗をかきながら、笑顔を絶やさず楽しむ姿勢は出場のお機会のあったメンバーだけでなく、応援だけでも！と駆けつけてくださった皆様にも感じて頂けたのではないかと思います。特に決勝戦はその場にいた全ての方が心に何か感じる事ができた最高の試合だったと自負しております。

今年度はJAYCEEとして誰のために、何の為にという根本から学べる仕組みづくりを取り入れるために、サッカー部会と合同練習を実施しました。それぞれの部会役員が中心となって段取りをおこない、練習に参加されるメンバーがしっかりと交流し、コミュニケーションをとりながら委員会の垣根を越えた交流をすることができました。しかしながら、大会後に計画しておりました他部会と一緒に実施する予定でしたレクリエーションにおきましては、LOMの事業と重なり日程調整が不可能との判断から実施を見送る形となってしまいました。こちらは引継ぎ事項として申し送りをおこない、ぜひ実施して頂きたい他部会との交流事業だと考えております。

部会長をする中で一番強く感じたのは、何事も真剣に立ち向かえば不可能なことはないということと、自分は一人ではないということです。一生懸命行動すれば必ず支えてくださる人が増え、その輪がメンバーへ波及しそれはやがて人々に影響を与えることができるということを学びました。また、野球というスポーツを通してメンバー全員で目標に向かって一丸となって汗をかき、物事に真剣に取り組むことの大切さを知りました。さらに、部会員同士が互いの成長と友情を育み、委員会活動、一人ひとりの友情、ひいてはLOM活動全体の成長に繋げる野球部会を作るという目標は参加されたメンバー一人ひとりが肌で感じてくれたのではないかと確信しております。

最後に、野球部会活動に関わってくださった皆様、そして今日まで快く支えてくださいました森副部会長、三角運営幹事、津貫会計幹事に心から感謝します。お陰様で楽しく部会を運営することが出来ました。本当にありがとうございました。



サッカー部会

部長 理事 幹事
 会 幹 幹
 部 営 計
 副 運 会 部

温坂下久石江黒佐外枇前宮吉
 水 下 德 保 井 夏 木 伯 村 木 田 島 留
 太 郎 樹 之 也 郎 輔 文 一 理 範 太 恵
 太 次 香
 浩 真 友 隆 達 徳 興 浩 純 由 和 勇 芳

・ 岩 鎌 黒 塩 原 福 又 宮 和
 ・ 元 田 木 浦 口 留 木 脇 田
 ・ 隆 直 裕 卓 丈 隼 啓 佳 幸
 ・ 道 樹 二 将 郎 人 仁 亨 郎
 ・ 牛 神 小 津 東 堀 丸 森
 ・ 介 太 洋 宝 郎 樹 馬 允
 ・ 祐 清 明 嗣 信 博 亮 春
 ・ 谷 脇 路 貫 内 山
 ・ 内 川 國 常 東 堀 三 山
 ・ 村 田 分 盤 迫 内 角 本
 ・ 卓 葉 尚 紀 景 勇
 ・ 哉 匠 月 揮 憲 航 志 介

※上記以外の正会員で部会の趣旨に賛同される方

【事業報告】

今年度、新型コロナウイルスを起因とするイベント制限緩和が実施され、サッカー部会においてはメンバー同士のコミュニティ再構築を目標にスタートしました。九州大会を4月中旬に控え、野球部会と合同練習では多くのメンバーに参加していただき練習が終わった時には我が身の体力を見つめ直す良い機会になったと感じています。また、大会や練習にあたり連絡ツールのLINEで一流選手の名言を発信することで部会メンバーの意識変革のきっかけづくりができました。

九州大会は隣町の霧島の地で開催され、結果は昨年を引き続き、見事に予選突破を果たしましたが、決勝トーナメントで惜しくも地元JCI霧島チームに敗れてしまいました。決勝トーナメント進出の際には、急遽翌日スケジュールを調整していただいたメンバー、けがを抱えながらも参加していただいたメンバーなど、数多くの仲間に助けられJCIの絆を感じることができました。次年度は八代の地で開催されます。委員会の垣根を超えてLOM一体となって取り組んでいただきたいと思います。

最後に、今年度サッカー部会に協力していただいた役員とメンバーの皆様へ深く感謝するとともに、次年度も引き続きサッカー部会へのご参加ご協力をお願い申し上げます。



2022年度出向者一覧表

■公益社団法人日本青年会議所
九州地区協議会

運営グループ
総務委員会

委員 丸山亮馬

■公益社団法人日本青年会議所
九州地区宮崎ブロック協議会

監査担当役員 堀之内 博 樹

LOM支援連携グループ

担当副会長 川 田 匠

地域連携グループ
ビジョナリーシティ委員会

委員長 原 口 丈太郎

委員 國 分 葉 月

委員 外 村 純 一

委員 温 水 浩 太

委員 又 木 啓 仁

出 向 者 報 告

公益社団法人日本青年会議所 九州地区協議会

運営グループ 総務委員会

丸 山 亮 馬

今回、九州地区総務委員会に出向いたしました。

活動としてはなかなか参加できずでしたが委員長やメンバーの方々の包容力に包まれながら5月に宮崎県内にある運営グループ3委員会合同懇親会に出席できました。1人だけ若く気まずいなと不安に思いながら行きましたが、すごく笑顔に溢れる懇親会で時間が過ぎるのが早く感じるほどでした。その中でもJC歴についての話しが一番印象深かったのでそこにふれてみます。

10名ほどで雑談していたのですが卒業の話しや、各ロムのメンバー数の話しをしているときに誰が何年JCマンなのかという話しになりました。自分が一番最後に答えたのですが、3番目くらいの歴で皆さんの頭に？マークが見えるような空気になったのを覚えています。

そこで思ったことが、自分より歴の短い方々でも地区に出向して役を担ってるのに自分は何もできていないと思い、もう少し頑張ってみようかなと思えました。

それからなにができたかと言われると議事録作成の宿題くらいしかできていませんが、もしまた機会があればもう少し頑張れば違った景色がみれるのかなと思える経験でした。皆様も出向の話がきたときは、忙しいとは思いますがぜひ一歩踏み出してみてください。難しいこともあるとは思いますが、歴に関係なく新しいなにかを見つける、築けると思います。ありがとうございました。

公益社団法人日本青年会議所 九州地区 宮崎ブロック協議会

監査担当役員

堀之内 博 樹

宮崎ブロック協議会に監査担当役員として出向しました。役割としては会員会議所会議（理事会）での監査講評、そして報告議案の監査です。LOMという監事ポジションですね。ブロック協議会は県内9つのLOMから出資、人の出向にて組織される組織です。そして地域の垣根を越えて県内全域での青年会議所運動を行って行きます。LOMの事業と同じで、各地より出向した委員長の議案を承認するのは、出資者でもある各地9つのLOM理事長の皆様となり年度活動が行われていきます。そのような場において会がスムーズに進行しているか確認しながら最後に批評とちょっといい小話をするのが監査の普段の役割でした。正直この監査講評がとても勉強になりました。想像してください。各地より出向してきたLOMの代表出向者、そしてそのLOMの理事長9人、帯同する専務らを前に、会に対して批評をします。批評するだけなのも面白くないので大抵は小話を歴代監査はされていましてので私もJCあるある的

な話をさせてもらいましたが、お歴々のメンバーを前にして、正直すくみ上げる思いでした。自分がそんな大層な話ができるだろうか。それでも恥を忍んで、JCで学ばせてもらった想いを会の状況に合わせて伝えてきました。お聞き苦しい事もあったかと思いますが、このような経験の機会をいただきありがとうございました。立場が人を育てるとも言います。あのポジションでなければこのような場で皆さんに想いを伝える機会というのは中々ないと思いますし、だからこそ、私自身の成長が出来たと思っています。監査としてはこの文を書いている年末時点では最終監査が終わっていませんのであと一仕事残ってはいますが、2022年度の会務役員の皆様本当にお世話になりましたお疲れ様でした。そして2021年の10月ぐらいだったでしょうか、「ブロックの監査やってみんね」声をかけていただいた第59代佐伯理事長に感謝申し上げます。正直不安でいっぱいでしたが、正面で私の話を聞きながらうんうんと相槌を打って下さる姿はとても勇気づけられました。本当にこのような機会を頂きありがとうございました。

JCは待っていても学べません。行くからこそ学べるのです。他LOMとの交流や県でのJC活動、最初は腰があがらないかもしれませんが、ブロック事業に参加するなどして少しずつ触れてみて将来出向をしてみたいかでしょうか。必ずあなたのプラスになると断言します。

LOM支援連携グループ

担当副会長 川 田 匠

「青年が社会により良い変化をもたらすための発展と成長の機会を提供する」これこそが、青年会議所の使命。組織の使命達成に力を尽くそう。

この言葉は、2022年度 公益社団法人日本青年会議所 九州地区宮崎ブロック協議会で会議を行う前に、唱和をしていた心構えの1つです。私は、LOM支援連携グループの担当副会長として、出向させていただきました。担いとしては、JCの理念に共感するメンバーを増やすことで、理念共感による質的拡大の推進をすること。アカデミーメンバー向けの事業をする委員会を担当副会長としてバックアップすることでした。

今までも、出向はしてきましたが、〇〇長というカタチでの出向は初めてで、JCI都城の代表として恥ずかしいことは出来ないなと1年間走りきることが出来ました。1年間、出向して感じたことは、もっとブロック協議会を私たちLOMメンバーは利用した方が良いということです。事業を計画していく中でLOMメンバーで一生懸命考えることも、もちろん大事なことです。予算が厳しい現在のJCI都城において、事業の目的次第ではブロック協議会と一緒に事業を構築していく手法を検討することは、より安く、より効果的に、その事業の目的を達成する為にも必要なことだし、ブロック協議会の役割は各LOMへの協力支援ということなので、win-winな結果につながるはず。

残り2年の青年会議所活動、今年勉強させていただいたことを、LOMに伝えることが私の役割だと思います。冒頭の言葉のように、この組織の使命は青年に発展と成長の機会を提供することです。是非、皆さんも出向を成長の機会にしてください。1年間、共に出向した堀之内監査、原口委員長、そして支えてくださった佐伯理事長をはじめスタッフの皆様、本当にありがとうございました。

地域連携グループ ビジョナリーシティ委員会

委員長 原口 丈太郎

2022年度、宮崎ブロック協議会に委員長として出向させていただきました。

ビジョナリーシティ委員会に与えられた職務は二つありました。一つは県内9LOMにまちの中期ビジョンの策定を推進していくこと。JC自らがそれぞれの地域の目指すべき未来像について考え、地域への持続的インパクトを目指したものでした。

具体的手法として、日本本会ビジョナリーシティ会議主催による策定カリキュラムへの参画推進と、理念共感拡大合宿におけるセミナー、JCフェスタ2022in宮崎におけるメインフォーラムをそれぞれ実施しました。結果としてまちの中期ビジョンの策定に至ったLOMはJCI日向のみとなりましたが、ビジョンづくりの過程において全てのLOMに得るものがあつたのではないかと考えております。

二つ目の職務はGian Pocketの推進です。2021年度に生まれたばかりのこの議案検索システムを、さらにブロック内に浸透させるべく年間通してアカウント未登録LOMに働きかけ、9月には質の高い事業構築とGian Pocketの活用を目的としたセミナーを実施し、学びの機会を提供できました。

出向とはこれまで無縁で、LOMでの委員長経験もなかった自分にとっては大きなチャレンジでした。しかしながら委員長という役を引き受けさせて頂いたことで、数多くの素敵な出会いに恵まれ、思いがけない場所へ足を運び、未知なる学びの扉を開けることが出来ました。これを読んでいるメンバーの皆様、出向の機会がやってきましたら迷わず飛びついて下さい。プラスしかありません。

最後に、多数のご意見を下さった各地会員会議所理事長の皆様、共に一年間走り切った関谷会長を初めとする会務役員の皆様、日頃の委員会活動から積極的に関わってくれた委員会メンバーの皆様、同じ担いの九州地区のブロック委員長の皆様、JCフェスタに駆けつけて下さった地区の大塚VC、講師としてお世話になったレインボービュー山田代表、宮崎公立大の四方先生、宮崎公立大の甲斐君、パタゴニアの辻井さん、日本本会ビジョナリーシティ会議花田議長、長嶋VC、アワード委員会小林委員長、宮川VC、各種セミナー・フォーラムに参加して下さいましたLOMメンバーの皆様、そして出向のお声をかけて下さった佐伯理事長、鎌田専務に心からの感謝を申し上げます。

皆様のお力添えなしに一年間やり抜くことは不可能なものでした。

ありがとうございました。

委員 國分 葉月

原口委員長率いるビジョナリーシティ委員会メンバーとして、出向させて頂きました。

コロナ禍も続く大変な中、原口委員長をはじめとするビジョナリーシティ委員会メンバーでリモート会議などを活用しながら事業構築を行いました。

なかなか他のLOMメンバーと直接お会いする機会は少なかったですが、リモート会議などを通じて、各LOMの色々と貴重なお話を伺うこともでき、メンバーの人となりも垣間見られ、とても有意義な時間を過ごさせて頂きました。

出向したことで、普段関わる機会もなかなか取れない他LOMのメンバーとも関わる事ができ、LOM活動や仕事をしていく中で、とてもいい刺激となり、活力にもなっていたように思います。

出向をされるとまた色々な視野も広がると思いますので、ぜひ出向の機会がある方は出向のチャンスを活かして頂ければと思います。

本当に一年間ありがとうございました。

皆様お疲れさまでした。

委員 外村 純一

今回、宮崎ブロック協議会のビジョナリーシティ委員会へ出向いたしました。都城より、原口君が委員長として、又木君が副委員長として出向している委員会への所属でした。6月のブロック大会ではフォーラムの開催、9月にはワンインパクトセミナーの開催、と充実し、勉強になった1年でありました。内容もそうですが、出向の醍醐味は他の LOM のメンバーと交流が図れることです。コロナ禍でなかなか現地での委員会開催が難しい状況ではありましたが、ZOOM 会議を用い、事業に向かい一緒に活動したことで都城以外の仲間が増えました。来年以降も各種大会で会う機会があったら交流を深めていきます。

皆様も出向の話がきたときは、忙しいとは思いますがぜひ一歩踏み出してみてください。必ず良い景色が見えます。ありがとうございました。

委員 温水 浩太

原口丈太郎委員長率いる委員会メンバーとして、宮崎ブロック協議会に出向させていただきました。県内各LOMのメンバーたちとJCフェスタ2022in宮崎におけるメインフォーラムやONE IMPACT SEMINAR in宮崎に参加し、Gian Pocketの活用を目的とするなど、LOMとは異なる職務を体感することで多くの学びを得ました。

年次当初は、コロナ禍でwebを通じての打ち合わせが多い中、事業構築を担った原口委員長におかれましては、大変なご苦勞だったと思います。一年間お疲れさまでした。

LOMメンバーの皆様にはぜひ出向の機会を逃すことなく、挑戦していただきたいと感じる一年でした、必ず自己革新につながると確信しています。

委員 又木 啓仁

原口丈太郎委員長率いる委員会の副委員長として、宮崎ブロック協議会に出向させていただきました。副委員長という立場ながら副委員長らしい事は何一つとして出来なかったという大きな後悔が残る一年でした。

原口委員長は自ら県内各 LOM を廻られ LOM 間の橋渡しを全力で行っていただき大変なご苦勞とご迷惑をおかけしたと思います。委員会メンバーを始め各 LOM の委員長、委員会メンバーにも非常に申し訳ないことをしてしまいました。誠に申し訳ありませんでした。

LOM の皆さんに対して何かアドバイスできる立場ではありませんが、原口委員長のお話を拝聴させていただく中でブロック出向とは人との繋がりが増え、まさしく自己研鑽にあたる内容だと考えています。

家庭と仕事との JC の全てのバランスが均等問いのは非常に難しいですが、もし機会や興味があれば飛び込んでみるのも今後の自分のためになると思います。

一般社団法人 都城青年会議所

【2022年1月1日から2022年12月31日まで】

<収入の部>

	項目	2022年度補正予算	2022年度決算	差額	備考
会費	正会員	4,800,000	4,800,000	0	正会員年会費
	新入会員	1,200,000	660,000	-540,000	新入会員11名
	入会金	400,000	220,000	-180,000	新入会員11名
	特別会員	300,000	300,000	0	2021年度卒業生より 補足説明①
	賛助会員	10,000	10,000	0	賛助会員1名
事業収入	事業登録料収入	260,000	218,000	-42,000	8月例会、卒業式 補足説明②
	懇親会登録料収入	0	0	0	
	寄付金収入	400,000	400,000	0	7月創立記念シニア会より寄付
	販売収入	0	0	0	
	広告料収入	0	0	0	
	その他事業雑収入	0	0	0	
補助金収入	補助金収入	0	0	0	
雑収入	預かり金収入	0	0	0	
	受取利息	1,000	73	-927	
	その他雑収入	0	555,113	555,113	補足説明③
(1) 合計		7,371,000	7,163,186	-207,814	

<支出の部>

	項目	2022年度補正予算	2022年度決算	差額	備考
負担金	JCI	78,650	84,864	6,214	会員51名分
	日本JC	280,000	280,000	0	会員51名分
	機関誌	150,000	129,250	-20,750	会員51名分
	地区協議会	200,000	166,000	-34,000	補足説明④
	ブロック協議会	370,000	309,000	-61,000	補足説明⑤
	国際協力基金	91,250	93,075	1,825	会員51名分
	日本JC出向者負担金	0	0	0	
	小計	1,169,900	1,062,189	-107,711	
事務局	事務局維持費	1,080,000	1,080,000	0	IT産業ビル使用料
	事務局員費	900,000	899,503	-497	給与(12ヶ月分)
	事務局員交通費	32,000	26,700	-5,300	交通費×(12ヶ月分)
	法定福利費	11,000	10,365	-635	雇用保険料×(12ヶ月分)
	通信費	180,000	143,203	-36,797	電話、FAX、切手、ネット使用料等
	印刷費	200,000	186,792	-13,208	コピー機リース代、カウンター代等
	消耗品費	100,000	28,027	-71,973	事務消耗品、封筒代等
	資産管理費	143,000	142,540	-460	太鼓一式保管料+保険料
	寄付金	100,000	30,000	-70,000	補足説明⑥
	雑費	250,000	154,882	-95,118	ネットバンキング、送料、振込手数料等
小計	2,996,000	2,702,012	-293,988		
会議費	総会費	421,000	342,107	-78,893	1月定時総会・7月定時総会
	育LOM推進費	50,000	0	-50,000	
	小計	471,000	342,107	-128,893	

<一般会計>

現金	0
普通預金	7,980,090
立替金	20,500
未払金	-1,650
預かり金	
前受け金	-60,000
遊休財産	
正味財産合計	7,938,940

<特定費用準備金>

地域活性化事業積立金	800,003
小計	800,003

<正味財産>

正味財産合計	8,738,943
--------	-----------

2022年度 全体収支決算書 (案)

(単位: 円)

	項目	2022年度補正予算	2022年度決算	差額	備考
委員会事業費	総務委員会	61,000	52,505	-8,495	11月第1例会
	経営力人間力向上委員会	104,000	46,223	-57,777	2月第1例会、6月第1例会、10月第1例会
	LOM活性化委員会	841,000	656,121	-184,879	4月第1例会、9月第1例会、12月第1例会卒業式
	拡大広報委員会	895,000	500,100	-394,900	3月第1例会、7月第2例会創立記念、SNS発信事業
	地域活性化委員会	1,039,000	945,386	-93,614	5月第1例会、8月第1例会
		小計	2,940,000	2,200,335	-739,665
預かり金支出	預かり金	0	0	0	
	小計	0	0	0	
事業費	事業推進費	1,200,000	0	-1,200,000	補足説明⑦
	関連事業参加推進費	20,000	0	-20,000	
	太鼓部会活動費	512,000	348,929	-163,071	法被代60枚分
	野球部会活動費	10,000	10,000	0	大会登録料
	サッカー部会活動費	50,000	50,000	0	人会登録料
	小計	1,792,000	408,929	-1,383,071	
渉外費	旅費	250,000	0	-250,000	
	渉外費	300,000	84,401	-215,599	北嶽山交流費、他団体への会費等
	慶弔費	150,000	49,000	-101,000	弔電、献花等
	小計	700,000	133,401	-566,599	
特定費用準備費	地域活性化事業積立支出	500,000	500,000	0	60周年記念事業費としての積立
	その他積立	0	0	0	
	小計	500,000	500,000	0	
管理費支出	法人県民税	21,000	21,000	0	
	法人手続費	190,000	82,545	-107,455	登記関連
	小計	211,000	103,545	-107,455	
予備費	予備費	4,819,372	0	-4,819,372	
	小計	4,819,372	0	-4,819,372	
	② 合計	15,599,272	7,452,518	-8,146,754	

当年度収支差額(1)-(2)	▲ 8,228,272	▲ 289,332	7,938,940	
前年度繰越収支差額	8,228,272	8,228,272	0	
次年度繰越収支差額	0	7,938,940	7,938,940	

監査報告

一般社団法人都城青年会議所2022年度一般会計決算関係書類について監査したところ、金銭出納帳、領収書
その他書類が全て完全に整備され、かつ収支が適正に執行されていることを確認しました。

2023年 1月 4日

監事

修行 信勝



2023年 1月 4日

監事

田中 賢一



2022年度 特定費用準備金決算書

(単位:円)

収入		支出	
前年度繰越金	300,001	次年度繰越金	800,003
地域活性化事業積立金	500,000		
その他積立	0		
利息	2		
合計	800,003	合計	800,003

監 査 報 告

一般社団法人都城青年会議所2022年度特別費用準備金決算関係書類について監査したところ、金銭出納帳、領収書、その他記帳類が全て完全に整備され、かつ収支が適正に執行されていることを確認しました。

2023年 1月 4日

監査

修行 信勝 

2023年 1月 4日

監査

田中 賢一 

一般社団法人都城青年会議所
正味財産増減計算書計算書
 2022年1月1日 から 2022年12月31日 まで

(単位:円)

科目名	当年度	前年度	増減	備考
I 一般正味財産の部				
1. 経常増減の部				
(1)経常収益				
受取入会金	220,000	100,000	120,000	
受取入会金	220,000	100,000	120,000	
受取会費	5,770,000	6,440,000	-670,000	
正会員会費	4,800,000	5,880,000	-1,080,000	
新入会員会費	660,000	370,000	290,000	
特別会員会費	300,000	180,000	120,000	
賛助会員会費	10,000	10,000	0	
事業収益	218,000	100,000	118,000	
登録料収益	218,000	100,000	118,000	
販売収益	0	0	0	
広告料	0	0	0	
受取補助金等	0	0	0	
地方公共団体補助金	0	0	0	
民間助成金	0	0	0	
受取寄付金	400,000	340,000	60,000	
受取寄付金	400,000	340,000	60,000	
受取募金	0	0	0	
雑収益	555,188	245,105	310,083	
受取利息収益	75	72	3	
その他雑収益	555,113	245,033	310,080	
経常収益計	7,163,188	7,225,105	-61,917	
(2)経常費用				
事業費	2,609,264	2,072,888	536,376	
太鼓部会活動費	348,929	0	348,929	
野球部会活動費	10,000	0	10,000	
サッカー部会活動費	50,000	50,000	0	
事業推進費	0	0	0	
会場設営費	763,314	443,070	320,244	
本部団体関係費	239,419	363,512	-124,093	
講師関係費	67,800	46,802	20,998	
広報費	144,541	299,657	-155,116	
資料作成費	122,234	181,505	-59,271	
報告書作成費	450	0	450	
懇親会費	442,942	294,980	147,962	
旅費交通費	0	0	0	
参加記念品費	341,055	319,210	21,845	
保険料	18,440	23,790	-5,350	
通信費	0	43,948	-43,948	
雑費	0	5,850	-5,850	
印刷費	1,105	564	541	
事務消耗品費	35,725	0	35,725	
手数料	22,760	0	22,760	
予備費	550	0	550	
管理費	3,281,065	3,550,149	-269,084	
会議費	342,107	372,208	-30,101	
総会費	342,107	372,208	-30,101	
事務局員費	899,503	1,000,209	-100,706	
法定福利費	10,365	7,739	2,626	
事務局交通費	26,700	32,400	-5,700	
通信費	143,203	145,441	-2,238	
消耗品費	28,027	63,225	-35,198	
旅費	0	81,320	-81,320	
事務局維持費	1,080,000	1,080,000	0	
渉外費	84,401	49,000	35,401	
雑費	154,882	141,531	13,351	
資産管理費	142,540	120,000	22,540	
寄付金	30,000	0	30,000	
慶弔費	49,000	101,500	-52,500	
印刷費	186,792	162,976	23,816	
法人県民税	21,000	21,000	0	
法人手続費	82,545	171,600	-89,055	
負担金	1,062,189	1,256,242	-194,053	
JCI負担金	84,864	84,942	-78	
日本JC負担金	280,000	312,500	-32,500	
地区協議会負担金	166,000	204,000	-38,000	
ブロック協議会負担金	309,000	383,000	-74,000	
国際協力資金	93,075	98,550	-5,475	
日本JC出向者負担金	0	20,000	-20,000	
機関誌	129,250	153,250	-24,000	
経常費用計	6,952,518	6,879,279	73,239	
当期経常増減額	210,670	345,826	-135,156	
2. 経常外増減の部				
(1)経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	
(2)経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	210,670	345,826	-135,156	
一般正味財産期首残高	8,528,273	8,182,446	345,827	
一般正味財産期末残高	8,738,943	8,528,272	210,671	
II 指定正味財産増減の部				
当期指定正味財産増減額	0	0	0	
指定正味財産期首残高	0	0	0	
指定正味財産期末残高	0	0	0	
III 正味財産期末残高	8,738,943	8,528,272	210,671	

貸借対照表

2022年12月31日現在

(単位: 円)

科 目	当 年 度	前 年 度	差 異	備 考
I 資産の部				
1. 流動資産				
現金預金	7,980,090	8,215,942	△ 235,852	
現金	0	0	0	
普通預金	7,980,090	8,215,942	△ 235,852	
立替金	20,500	12,330	8,170	
未収入金	0	0	0	
事業仮払金	0	0	0	
流動資産合計	8,000,590	8,228,272	△ 227,682	
2. 固定資産				
(1) 特定財産	0	0	0	
(2) その他の固定資産	800,003	300,001	500,002	
固定資産合計	800,003	300,001	500,002	
資産合計	8,800,593	8,528,273	272,320	
II 負債の部				
1. 流動負債				
未払金	1,650	0	1,650	
預り金	0	0	0	
前受金	60,000	0	60,000	
流動負債合計	61,650	0	61,650	
2. 固定負債				
長期借入金	0	0	0	
固定負債合計	0	0	0	
負債合計	61,650	0	61,650	
III 正味財産の部				
1. 指定正味財産				
指定正味財産合計	0	0	0	
(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	(0)	
2. 一般正味財産	8,738,943	8,528,273	210,670	
(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	(0)	
正味財産合計	8,738,943	8,528,273	210,670	
負債および正味財産合計	8,800,593	8,528,273	272,320	

補 足 説 明

番号	項 目	内 容
①	特別会員	JC終身会費30,000円×2021年度卒業生10名
②	事業登録料収入	8月例会出店登録料108,000円、卒業式負担金10,000円×2022年度卒業生11名
③	その他雑収入	法被代寄付100,000円、花火大会実行委員会より寄付100,000円、 シニア会より事務局維持費300,000円、その他受取利息など
④	負担金 地区協議会	付加金4,000円×40名、前期追加2,000円×3名
⑤	負担金 ブロック協議会	付加金3,000円×43名、大会登録料4,000円×40名、基本金20,000円
⑥	寄付金	花火大会実行委員会立ち上げのための諸経費が不要だったため減額、盆地祭り協賛金30,000円
⑦	事業推進費	花火大会事業費が不要であったため減額

2022年度 100%例会出席者一覧

完全100%例会出席者		
委 員 会 名	会 員 名	備 考
理 事 長	佐 伯 浩 文	3 年 連 続
副 理 事 長	牛 谷 祐 介	
副 理 事 長	川 田 匠	4 年 連 続
副 理 事 長	堀之内 博 樹	4 年 連 続
副 理 事 長	東 迫 紀 憲	3 年 連 続
専 務 理 事	鎌 田 直 樹	5 年 連 続
事 務 局 長	下 徳 友 樹	4 年 連 続
総 務	東 信一郎	
総 務	神 脇 清 太	3 年 連 続
L O M 活 性 化	西 隆 弘	
拡 大 広 報	山 本 勇 介	
拡 大 広 報	原 口 丈太郎	
地 域 活 性 化	内 村 卓 哉	
地 域 活 性 化	塩 浦 卓 将	
地 域 活 性 化	外 村 純 一	
地 域 活 性 化	前 田 和 範	2 年 連 続

2023 年度 サマリー・事業計画

2023 年度 全体収支予算(案)

2023 年度 出 向 者(案)

就任のご挨拶



一般社団法人 都城青年会議所
第60代理事長 東迫 紀憲

あけましておめでとうございます

一般社団法人都城青年会議所メンバーをはじめ、先輩諸氏並びに多くの関係者の皆様方におかれましては、輝かしい健やかな新年を迎えられましたことと心よりお慶び申し上げます。また、平素は一般社団法人都城青年会議所の活動に対しまして格別なるご理解を賜り、厚く御礼を申し上げます。

一般社団法人都城青年会議所 2023年度のスローガンは、「ともに心躍る未来へ」～笑顔溢れる都城のために～とさせていただきます。創立60周年を迎える本年は「明るい豊かな社会を創造する」という創始の精神を今一度胸に刻み、これまでご協力いただきました行政、各種団体、そして先輩方へ感謝と敬意を表すとともに、まずは我々青年会議所のメンバーが心躍る、わくわくするような未来を思い描き、楽しみながら日々の活動を行って参ります。わくわくするそして楽しい所には人が集まりやがて仲間が増えてゆき、私たちが住み暮らす都城圏域は更によりよいまちへ変わります。この思いを胸にこれからもわくわくを伝播させ笑顔溢れるまちのためにメンバー一丸となって青年会議所運動に取り組んで参ります。

本年度も私どもの運動にご支援・ご協力くださいますようお願い申し上げますとともに、皆様が素敵な一年となることをご祈念申し上げまして就任のご挨拶とさせていただきます。

2023年度 スローガン

「**ともに心躍る未来へ**」

～笑顔溢れる^{まち}都城のために～

【基本方針】

1. 心躍る人財育成グループ
 - ・ 持続可能な組織運営の構築
 - ・ ブランディング力の向上
 - ・ 会員拡大の実施
 - ・ アカデミーメンバーのスキルアップ実践
2. 心躍る創立60周年運営グループ
 - ・ 心躍る創立60周年事業の実施
3. 心躍る地域活性化グループ
 - ・ 地域の活性化
 - ・ 中長期ビジョンの策定
4. 心躍る組織運営グループ
 - ・ 確実な組織運営と理事会運営

一般社団法人 都城青年会議所 2023年度理事長所信

第60代理事長 東 迫 紀 憲

【はじめに】

2023年現在はニューノーマルな時代を迎え、世界的に常識が大きく変わってきました。日本においても新型コロナウイルスの未曾有の脅威により緊急事態宣言が発令されるなど、我々の日常を非日常に変え社会の様相は一変してしまいました。

青年会議所運動も例外ではなく、今までは当たり前のように行っていた対面での活動や、多くの市民を巻き込んだ事業も自粛を迫られてきました。それに伴い、急速にオンライン化が進み委員会や例会、各種大会への参加がWEBでもできることが当たり前になってきています。WEBでの開催は簡単に人と繋がれるようになり、参加が叶わなかったメンバーに対して機会を提供することのできる素晴らしい取り組みである一方、対面で開催できない弊害としてコミュニケーション不足により実際に集まって会議をすることで得ていた、人と人が触れ合うからこそ生まれる新しいアイデアや、何気なく話していたことから生まれる気づきというものが無くなるなど人間関係の希薄化が如実に現れていると感じております。真の人間関係の構築は、オンラインでは難しいということを知りました。現地で行う事の価値を改めて考え、コロナ禍においてこれまで培ってきた新様式での委員会や例会を開催していく事が都城青年会議所をさらに飛躍させるものと確信しています。

歴史を振り返ると日本は、いくつもの国難を乗り越え、その度に更なる進化を遂げてきました。荒廃した戦後社会の中「新日本の再建は私たち青年の仕事である」として立ちあがった青年たちにより日本の青年会議所運動は始まりました。その志が全国に波及して1964年に全国で265番目に都城青年会議所が設立されました。この頃と今は同じではないでしょうか。

この状況下において、我々に必要なのは、何かが起こってから対処するのではなく、今後起こりうる問題を予測し、先人たちの想いを受け継ぎ、自らの手でより良い未来を創造していく事が大切です。新しい時代に対して我々が考えるわくわくできる新しい価値観を提供することによって、これからも地域のことを思い、ひとと繋がり、対話し、地域から必要とされる団体を目指していきましょう。

【心躍る創立60周年 ～わくわくと感謝の継承～】

1964年2月26日、初代理事長 宮永家昌先輩をはじめとする志高き40名の青年が集い、このまちをより良いまちにしていくという決意を胸に、全国で265番目に都城青年会議所が誕生しました。今日まで先輩諸兄の愛するこのまちをより良くしていく、その想いが途絶えることなく脈々と受け継がれ本年創立60周年を迎えます。

また、この半世紀以上にも渡る先輩諸兄の揺るぎない信念と弛まない努力によって創られた歴史と伝統の礎を我々自身が心に刻み、次代へ繋いでいく為に地域に改めて発信していく必要があります。

60周年という節目に改めて確認しなければならないことは、これまでの歴史のお陰でこの尊い青年会議所運動を我々現役メンバーが今も続けられるということです。永続的にこの運動ができたのは、行政や企業、各諸団体、そして何より、市民の皆様の御理解と御協力をいただきながら、様々な方との関わりを持たせていただくことができたからです。そしてこの運動を牽引してきたのは、その時代に即した組織づくりを行いながら地域に多大な影響を与え続け、都城青年会議所を地域から必要とされる団体として伝統を築き、守り続けてくれた先輩諸兄です。これまでの歴史を築き上げていただいた先輩諸兄に敬意を表すと共に、都城青年会議所に関わっていただいた全ての皆様に対し、我々現役メンバーは60周年事業を通じ、感謝の気持ちを大切にしながらこれからも運動を行っていきます。

これまでの都城青年会議所の全ての運動の原点にあるものは、まちを愛する強い想いです。我々がこれからも大切にしていかななくてはならないこの思いこそが、持続可能なまちづくりの原動力となり、その強さがまちづくりの根幹を支えます。このまちの環境を最大限に活かし、同じ志を持つ仲間と共に、脈々と受け継がれてきたまちを愛する想いを我々が架け橋となり次世代に繋ぎます。

そのために我々が、常識に捉われない個性豊かで魅力あふれる組織として、新たな視点から次世代の子ども達に、このまちが好きでこのまちに残りたい、将来また戻ってきたい、と思える心が育まれる事業を青少年に向けて行い、親から子へ、子から孫へと世代を超えてその想いが、家族とまちを結ぶ架け橋となる運動を行います。

さらに、一人ひとりが世代を超えた絆を強く心に刻み、誰もがこのまちを愛し、住み続けたいと思えるまちを目指し、未来に向け60周年を機に都城青年会議所の運動の中長期ビジョンを掲げます。これまでの歴史に感謝の気持ちを忘れず、未来永劫持続可能なまちとなるために、今後の都城青年会議所の更なる発展に向け、メンバー一丸となって、わくわくするような大きな一歩を踏み出せるよう邁進します。

【会員拡大とアカデミー】

青年会議所の運動は会員なくしてあり得ません。青年会議所は在籍40歳までという規則がある以上、会員の更新代謝を繰り返すことが必然であり、会員拡大が常に求められています。青年会議所には、地域の青年に発展と成長の機会を提供するプラットフォームとしての役割があり、新たな同志を迎え入れていくにあたり、青年会議所の魅力と私たち自身の魅力を伝える必要があります。膝を突き合わせて、目を見て思いを伝えるという機会が減る現状の中、我々が何を目的とするのか、どのような人財を育む時間なのかを理解することが必要であり、的確に魅力を伝えられる人財を創出する会員研修が必要であるといえます。メンバーが、都城青年会議所の歴史から様々なことを学び、組織の強みを深く理解し、それを自身の魅力に変えて的確な発信ができるようになることで、より恒久的な会員拡大が実現されます。

地域の発展には、より多くの若者に青年会議所を通じて地域をリードできる人財へと生まれ変わる機会を今後も提供し続けなければなりません。なぜならそれが私たちの使命だからです。そのためには私たちの理念に共感する人財を多く募る必要があります。メンバー数を純増させ組織力を高めることで、地域をリードする若き人財を増やし、青年会議所運動を最大化していきましょう。

【組織力を強化し都城青年会議所をブランディングする】

近年、組織風土を醸成するという機運が高まり、会員が声を上げ組織改革を行ってきました。会員数が減少傾向にある中、退会者を出さない組織体制を作ることも、法人格を有する団体にとって必要不可欠なことだと考えます。一昨年より、青年会議所と仕事、家庭を並立しながらも活躍しやすい環境にするというキーワードが起点となり、職場や家族に理解され会員が参加しやすい組織となるべく議論を重ねて参りました。このような取り組みを行う背景には、多様化する働き方や生き方が関係していると考えます。現代社会は、土日祝日、昼夜問わず働くことがステータスという時代ではなく、働きやすさ、活動しやすさ、仕事と家庭、青年会議所活動をそれぞれ並立できるかが重要であり、在籍する会員が求める水準も以前と比べ高くなってきています。

しかし我々は、定款や規定の上で組織を学んでいるのも事実です。現在、在籍年数の浅い会員が増えていく中、所属する組織のことについて学ぶ機会が減り、その状態のまま活動や運動を行っているのが現状です。LOM内で研修できる場を整え、あらためて、会員一人ひとりが組織について理解を深め、ルールを遵守しましょう。その上で、変化が必要であれば議論し魅力ある組織になるよう改革していきましょう。

世代を超えて我々の想いを広く伝播していくためにも、計画的な広報戦略を立て、時代に合った媒体を有効に活用した広報活動を行って参ります。都城青年会議所と地域の架け橋となる広報活動を実施し、都城青年会議所の価値がより高まるブランディングをおこないます。

【多様性を取り入れたビジョナリーシティの実現】

これからの青年会議所運動の考え方の一つとして、青年会議所単体での事業構築から、これまでよりも、もっと地域の方々の声を反映させた事業展開を行っていく事も大切だと考えます。地域課題に対して主観的、客観的、俯瞰的に見る力を養い、地域の課題を一緒に解決していく共感者の方々と共に問題解決に向けて協議し、その上で私たちに出来る事は何かを導き出していくことが重要になってきます。これからの地域課題は何かをしっかりと捉え、課題解決に向けて何をすべきであるかということ、我々現役メンバーで考え、運動を起し、社会課題解決の仕組みをつくり、持続可能な地域づくりに貢献していかなければなりません。

また、私たちの運動は常にビジョンをもとにして作られています。ビジョンは、メンバーに運動に対する指標をもたらし、刻々と変化する時代を見据え、その先の未来を想像できるものでなければなりません。世界的感染拡大は、予想を超えて、私たちに長期的な影響を与え、社会、生活に大きな変化をもたらしました。だからこそ、急速に変わる時代に応じて、このまちの目指す未来を明確化し、組織の結束力を高め、地域に広く深いインパクトを与える、より具体的なビジョンを示す必要があります。青年会議所運動の本質は何のために行うのか。自分よがりの運動になってはなりません。今こそ、これまで推進してきたSDGs(持続可能な開発目標)を道標とすべきであると考えます。都城青年会議所のビジョンと運動にSDGsを結びつけ強く推進していくことで、これまで以上に地域との調和をもたらし、持続可能で明るい豊かな社会の実現へと近づきます。

【結びに】

都城には夢と希望、そして心のつながりがこれまで以上に必要です。そのために私たちが心躍る未来を描きながら団結し、市民の心を動かし、より良いまちへ変えていきます。

そのために必要なこと、それは皆で「わくわく」することです。仲間は多い方が「わくわく」します。皆の心をつなげ「わくわく」する都城の価値を創りましょう。

私たちが「わくわく」することが出来れば、自然と仲間が増えていき、まち全体に「わくわく」が広がったとき、必ず都城はより良いまちに変わります。

都城を「わくわく」させるのは私たちです。

「わくわく」を伝播させ、「ともに心躍らせ 笑顔溢れる都城」を創造していきましょう！

2023年度年間例会事業実施スケジュール

	例 会		事 業	支 援・関 連	
	第 1 例会	第 2 例会	その他		
1月	総会 【総務ブランディング委員会】			京都会議 1/19(木)～1/22(日) 【アカデミー拡大委員会】	
2月	宮崎ブロック会長 公式訪問例会 【地域活性化委員会】				
3月	アカデミー拡大例会 【アカデミー拡大例会】			公益社団法人 日本青年会議所総会 3/25(土) 【事務局】	
4月	創立60周年事業例会 【創立60周年事業推進委員会】				
5月	中長期ビジョン例会 【地域活性化委員会】			ASPAC「ジャカルタ」 6/7(水)～6/10(土) 【事務局】	
6月	アカデミー拡大例会 【アカデミー拡大委員会】			JCフェスタ2023in西都 【地域活性化委員会】	
7月	総会 【総務ブランディング委員会】			サマーコンファレンス「横浜」 7/15(土)～7/16(日) 【総務ブランディング委員会】	
8月	創立60周年記念例会 【創立60周年事業推進委員会】			盆地まつり 8/5(土) 【アカデミー拡大委員会】 九州コンファレンス「熊本」 8/19(土)～8/20(日) 【事務局】	北蔚山青年会議所来訪 【地域活性化委員会】 いきいき大淀川クリーン作戦 【アカデミー拡大委員会】
9月	総務例会 【総務ブランディング委員会】		出向者報告会 【総務ブランディング委員会】		
10月	アカデミー拡大例会 【アカデミー拡大委員会】			全国大会「東京」 10/6(金)～10/8(日) 【創立60周年事業推進委員会】	焼肉カーニバル 【創立60周年事業推進委員会】 「肉と焼酎のふるさと・ みやこんじょ」花火大会 【地域活性化委員会】
11月	地域活性化例会 【地域活性化委員会】			世界会議「スイス」 11/14(火)～11/18(土) 【事務局】	島津発祥まつり 11/23(木) 【総務ブランディング委員会】
12月	卒業式 【創立60周年事業推進委員会】			北蔚山青年会議所訪問 【地域活性化委員会】	

心躍る組織運営グループ基本方針

専務理事 下徳 友樹

先代の青年たちが都城の地に青年会議所の灯をともして60年。私たちが今日を迎えることができるのは、幾度も降りかかった困難や苦境にも屈さず、英知と勇気と情熱をもって立ち向かい乗り越えてきた、先人たちから成る、洗練された組織運営の基盤によるものです。近年、パンデミックにより世界がニューノーマルな時代へと変わってきた中、組織運営も変化が起こり得る未来を予測し、且つ柔軟に対応できる運営と管理をより確固たるものにする必要があります。

青年会議所運動の手法も変化を求められ、オンライン化により現地参加ができなかったメンバーに対しても機会を提供できる環境へと変化してきました。ですが、対面で開催できない弊害として、コミュニケーション不足による人間関係の希薄化も確実に現れています。このような問題にもしっかりと対応し、再びメンバー同士が密に連携する機会を増やすことで、青年会議所運動に参加しやすい組織運営を行います。会員減少が進む中でも、同じ志を持ち、力を合わせればより強大な力を生み出します。顔を合わせて語り、助け合うことで、運動の質が高まり、育まれ、そこで生まれるアイデアや気づき、共感が自己成長へと繋がります。そして新たに芽生えた向上心と自信が青年会議所の魅力をさらに飛躍させ、ともに心躍る未来へと邁進します。また、組織としてのガバナンス強化と社会的責任を満たすコンプライアンスを徹底し、様々なライフステージで活躍しているメンバーが、青年会議所の場に於いても、もっと活躍することのできる組織運営を構築していきます。

60周年という節目を迎えるにあたり、創始の精神と未来を見据えた変革の精神を受け継いだ私たちが、これからも英知と勇気と情熱を持って青年会議所運動に邁進し、メンバー自らの手でわくわくする未来を市民とともに描きながら、そこで広がる魅力の輪に次世代も心躍らし笑顔が溢れる都城へと輝かせていきましょう。

心躍る人財育成グループ基本方針

担当副理事長 内村 卓哉

いつの時代も、青年の動向は社会にとって重要な意味をもっており、社会の抱える課題を見据え変革してきたのは情熱と責任感あふれる青年の行動でした。近年、ニューノーマルな時代を迎え世界的に生活様式や価値観が大きく変化しており、新たな社会的課題が散見されています。このように予測不可能な未来を明るい豊かな社会へと導くためにも、青年会議所は地域を牽引するリーダーとなる人財を育成し、輩出し続けなければなりません。

青年会議所事業には問題と原因やあるべき状態を示す設置背景があります。この事業を行う意義が伝わる事で、必然的に人々は集まり情熱を持ったコミュニケーションが交わされ、事業を通じた達成感を得る事により個人の成長や組織に強い結束力が育まれます。そのため、新入会員においても事業の社会的意義を早期に体感し成長する機会を与え、変革を目指し能動的に地域を牽引できる人財を育成します。また、事業に込められた想いを広く市民に伝え、私たちの運動への共感や信頼が更に伝播し、志ある仲間を増やす事で、人と人との磨きあう価値ある組織であり続けます。都城青年会議所が60年という長きにわたり存在しているのは、規律を重んじる姿勢から生まれた諸規定と、その上で躍動する青年が居たからです。一方で、世界的に多様性の尊重が求められており、個人の自律性が阻害されない、次代の組織の在り方を熟慮した変化も必要です。その為には先ず会員が定款・諸規定を再認識し、社会変動に即した組織改革に備え、不易流行の精神で進化し続ける学びの組織を醸成します。

都城青年会議所の会員、一人ひとりが社会的意義を意識し、自律性を備えた組織による自己成長を与えることで、都市圏域を牽引するリーダーへと成長し、予測が不可能な未来であっても、新たな課題の解決を目指す能動的な市民が溢れる次代を目指しましょう。そこには、誰一人取り残さず笑顔溢れる都城があると確信します。

心躍る創立60周年運営グループ基本方針

担当副理事長 川田 匠

1964年、志高き40名の青年が集い「このまちをより良いまちにしていく」という想いのもと都城青年会議所が誕生しました。そして、この想いは創立60周年を迎える今も変わりません。半世紀以上に渡り、先輩諸兄の揺るぎない信念と弛まない努力によって創られた歴史と伝統に対して感謝を伝える機会の創出と、創始の想いを継承していくメンバーを一人でも増やすため、運動を展開し地域にこれまで以上に力強く発信していく必要があります。

都城青年会議所が60年間運動を続けられているのは、行政や企業、各諸団体、そして何より、都城圏域の皆様のご理解と御協力を得て、様々な方との関わりを持たせていただくことができたからです。そして、この運動を牽引してきたのは、その時代に即した組織づくりを行いながら、地域に多大な影響を与え続け、青年会議所を地域から必要とされる団体として守り続けていただいた先輩諸兄です。これまでの歴史を築き上げていただいた先輩諸兄に敬意を表すと共に、都城青年会議所に関わっていただいた全ての皆様に対し、創立60周年記念例会を通じて感謝の気持ちを届けます。また、60年間行ってきた全ての運動の原点にあるものは、「このまちをより良いまちにしていく」という強い想いです。この想いに共感していただいたステークホルダーと共に、地域の未来を担う次世代の子ども達に起きている社会の課題を解決することで、子ども達がこのまちを愛し、住み続けたいと思える持続可能な地域を創るための「装置」となる60周年事業例会を行い、まちを愛する想いを継承していきます。

60年間の歴史を紡いでくださった先輩諸兄の想いは継承しながらも、時代に即した「幸せを生み出し続ける装置」となる運動を、私たち自身がわくわくしながら行うことで、地域全体にわくわくを伝播させ、「笑顔溢れる都城」を共感者の方々と共に創りだしていきましょう。その先に、地域の皆様のご「心躍る未来」があると確信します。

心躍る地域活性グループ基本方針

担当副理事長 山本 勇介

私たちの生活する都城圏域は豊かな自然に囲まれており、先人たちはその自然と共生しながら独自の文化を発展させ、地域の方々と協力し、数々の困難を乗り越えながら歴史を紡いできました。しかし、新型コロナウイルスの世界的感染が拡大し、社会的・経済的にも不安定になり、人々が行く末に不安を抱いている今、私たちは歴史上最大の困難に直面していると言えます。そのような今だからこそ我々青年会議所が声をあげ、リーダーシップを取りながら、地域活性に貢献していく必要があります。

これまで都城青年会議所は、地域活性のため数々の事業を構築してまいりました。しかし、今まで以上に力を入れなくてはならないことは、持続可能な地域創りです。そのためにまず、我々が主体となり、地域の様々な問題を洗い出し、問題解決のための策を講じて、地域のニーズに答える形で更なる発展に繋がるような運動を進めることで、地域の方々の軸となっていかなければなりません。また、地域の方々と協働し、地域の問題を、我々青年会議所を含め地域全員の手で解決していけるようなシステムを構築していく必要があります。花火大会や盆地まつりの立ち上げなど、これまで行ってきた運動の更なる充実により、都城圏域内を盛り上げるだけに留まらず、都城圏域外からの人の流入増加を図っていきます。更に、2022年に宮崎県でも取り入れられた「ベビーファースト運動」を地域に広げ、定着させることで、未来の地域発展も視野にいれた運動を展開していきます。

地域の未来を創造するのは、現在の我々一人ひとりであり、その地域です。感染拡大で混沌としている今の時代だからこそ、我々がステークホルダーの方々と一緒になって、地域と未来の架け橋になるという強い信念を掲げ、地域の方々が主役になれる運動を掲げていくことで、心躍る都城の未来を創造いたします。

総務ブランディング委員会

委員長 宮脇佳亨
 副委員長 東郷和利
 委員 黒木裕二 ・ 常盤尚揮 ・ 拜木成太
 丸山亮馬 ・ 宮島勇太

【サマリー】

一般社団法人都城青年会議所 2023年度 心躍る人財育成グループ	
総務ブランディング委員会	
委員長 宮脇 佳亨	
設置背景	1. 【1月定時総会の実施】 都城青年会議所の最高意思決定機関は総会です。本年創立 60 周年を迎える都城青年会議所が未来永劫発展し続ける団体である為に、総会を定款に則り厳格に開催し一致団結する必要があります。
	2. 【7月定時総会の実施】 次年度の体制を決める総会です。会員は入会歴や役職に関係なく皆等しく選挙権を有しています。60年の歴史を次代へと継承する為に、総会を定款に則り厳格に開催する必要があります。
	3. 【総務ブランディング例会の実施】 都城青年会議所はここ近年会員減少に伴い、会費収入の減少により各委員会の事業費が縮小せざるを得ない状況になっています。会員拡大を継続して行わなければ、会員減少→事業費縮小→会員減少→事業費縮小・・・と負のスパイラルに陥り、この会の魅力が減衰し新入会員の入会が難しくなると予想されます。そういった負の連鎖を防ぐ為にもこの会の魅力を継続的に発信し、この会に興味がある人物と連絡をする手段を構築し、継続的にアプローチをする必要があります。
設置目的	1. 【1月定時総会の実施】 総会を定款に則り厳格に開催し一致団結することを目的とします。
	2. 【7月定時総会の実施】 60年の歴史を次代へと継承する為に、総会を定款に則り厳格に開催することを目的とします。
	3. 【総務ブランディング例会の実施】 都城青年会議所に興味を持っている人物のリスト作成を仕組み化することを目的とします。
活動概要	1. 1月定時総会の実施。
	2. 7月定時総会の実施。
	3. 総務ブランディング例会の実施。
KGI (目標達成指標)	1. 【1月定時総会の実施】 該当なし
	2. 【7月定時総会の実施】 該当なし
	3. 【総務ブランディング例会の実施】 都城青年会議所の正会員数 80 名。
KSF (KGI達成のポイント・プロセス)	1. 【1月定時総会の実施】 該当なし
	2. 【7月定時総会の実施】 該当なし
	3. 【総務ブランディング例会の実施】 ホームページを軸として都城青年会議所の情報発信を行う。都城青年会議所のファンを増やす。

KPI (KGI達成のための中間指標)	1. 【1月定時総会の実施】 該当なし
	2. 【7月定時総会の実施】 該当なし
	3. 【総務ブランディング例会の実施】 セミナー参加者 30名
SDGs	9 産業と技術革新の基盤をつくろう 16 平和と公正をすべての人に
政策手法	1. 【1月定時総会の実施】 ①検証方法:該当なし ②手 法:該当なし
	2. 【7月定時総会の実施】 ①検証方法:該当なし ②手 法:該当なし
	3. 【総務ブランディング例会の実施】 ①検証方法:対外セミナーを実施する。 ②手 法:ホームページを軸に都城青年会議所の魅力の継続的に発信を行い、リストを作成し、セミナーに来てもらう。
パートナー	1. 都城 JC シニアクラブ
	2. 都城 JC シニアクラブ、選挙管理委員会
	3. 該当なし

【職務分掌】

1. 総会の運営、実施
2. 総務ブランディング例会の実施
3. JC アワー
4. 基本資料、総会資料の作成
5. 法人手続き、資産、備品管理
6. 定款・諸規程の運用、把握
7. SNS・HP を利用した広報・運営・管理
8. 例会における出席率発表
9. 例会、事業及び各種大会での出席状況把握
10. 選挙セミナーの実施
11. 新入会員予定者の事前審査、及びオリエンテーションの実施
12. 日本 JC 協働運動・連携推進運動事業の窓口
13. 出向者報告会の実施
14. 名義後援の受付、理事会への上程
15. 島津発祥まつり支援窓口
16. 2023 年度サマーコンファレンスへの参加企画
17. 新たな収入・支出の計画案の検討
18. 日本本会・九州地区協議会・宮崎ブロック協議会、及び出向者への協力支援
19. 共催事業への協力支援
20. 会員拡大 [最重要]

アカデミー拡大委員会

委員長 津貫 嗣宝
副委員長 岩元 隆道
委員 岩満 嵩介 ・ 國分 葉月 ・ 築地 史次
西 隆弘 ・ 堀之内 博樹

【サマリー】

一般社団法人都城青年会議所 2023年度 心躍る人財育成グループ	
アカデミー拡大委員会	
委員長 津貫 嗣宝	
設置背景	1. 3月拡大例会事業 2022年時点、JCI 都城のメンバー数は43名と減少傾向であり、拡大という課題の解決は急務です。ところが JC の魅力を知らない新入会員に拡大の課題を解決することは厳しい所があります。早期退会の原因はコミュニケーション不足に一因があるため、「退会者抑制」に重きを置き、メンバー間のコミュニケーションの構築を行いながら、アカデミーメンバーに JC の魅力を感じて貰う必要があります。
	2. 6月アカデミー例会事業 JC のシステムを知らないアカデミーメンバーは委員長が何をしているかが分からないことが大半であり、共通の意識を持って事業にとり組めてはいない事が多いです。また JC の主軸である所信表明、基本方針に触れる機会があまりないのが現状であり改善する必要があります。
	3. 10月アカデミー例会事業 アカデミーメンバーは委員会の活動内容について理解が浅いため、自分の存在価値を見出せなくなった方が早期退会率を高めていると思われれます。改善策として自らが内容を理解した事業を構築することで「自己効力感」を高めて貰う必要があります。
設置目的	1. 3月拡大例会事業 アカデミーメンバーに既存会員との親睦を深めてもらいつつ、JC の魅力を理解してもらうための事業を構築致します。
	2. 6月アカデミー例会事業 アカデミーメンバー及び既存会員の役職未経験者に例会作成のスキームを学んでもらう事により共通の目的意識を持ってもらうことを目的とします。
	3. 10月アカデミー例会事業 実際にアカデミーメンバーが6月例会で投票された事業を構築することで、背景と目的を理解しながら運営できるため、自身の貢献度を実感することができることを目的とします。
活動概要	1. 企画する催し物を通じて、アカデミーメンバー及び既存会員のコミュニケーションのキッカケを作り、その後の懇親会にて交流を深めてもらう事を目的とします。
	2. アカデミーメンバーが理事長所信や基本方針に沿った事業を企画、立案し、コンペ方式で外部審査員に評価してもらいます。
	3. 6月例会にて審査員に評価して頂いた事業の中から、実際に活動する事業を選定して、アカデミーメンバーにより構築を致します。
KGI (目標達成指標)	1. JC 都城内でコミュニケーション不足が原因による退会者0人になる事により、入会者数=会員増員を目指します。
	2. 恒常的に例会事業の背景や目的を確認できる機会を設け、委員会の方針理解度100%を目指します。
	3. 主体的に委員会へと参加するメンバー100%にし JC に魅力あふれる人財が増える事を目指します。

K S F (KGI達成のポイント・プロセス)	1. アカデミー系の委員会の事業により、アカデミーメンバーのコミュニケーションのキッカケの場を作ります。
	2. 例会作成スキームを学ぶことで、JCに対する共通意識を確認させます。
	3. 委員会内の自身の役割を確認することで、アカデミーメンバーにも委員会内で必要不可欠な人財になれるようにします。
K P I (KGI達成のための中間指標)	1. 本年度の JC メンバーの相互認知度 100%
	2. アカデミーメンバー及び既存会員が例会作成スキームの理解を 100%、事業構築の楽しさを 100%の取得を目指します。
	3. 事業構築により JC 内での「自己効力感」を感じてもらったアカデミーメンバー 100%。
S D G s	4：質の高い教育をみんなに 8：働きがいも経済成長も 11：住み続けられるまちづくりを 17：パートナーシップで目標を達成しよう
政策手法	1. 3月拡大例会事業 ①検証方法：例会の最後にコミュニケーションや認知度についてのアンケートを実施します。 ②手法：OB の対談により JC の魅力を学んで貰った後、アカデミーメンバー及び既存会員で簡単な催し物を実施し、その後に懇親会を致します。
	2. 6月アカデミー例会事業 ①検証方法：例会実施後に例会作成スキームに対する理解度、事業の構築の楽しさについてのアンケートを実施します。 ②手法：アカデミーメンバーに企画、立案して頂いた事業を外部の審査員にコンペ方式で評価して頂きます。
	3. 10月アカデミー例会事業 ①検証方法：アカデミーメンバー、既存会員に対して「自己効力感」についてのアンケートを実施します。 ②手法：6月例会で評価された事業を実際にアカデミーメンバーで構築してもらいます。
パートナー	1. JC 都城シニアクラブ
	2. 都城、三股圏域の銀行支店
	3. 該当なし

【職務分掌】

1. アカデミー拡大例会の実施
2. 仮入会者への例会等の案内や管理
3. LD アワー
4. 盆地祭りへの協力支援窓口
5. 京都会議への参加企画
6. 日本本会・九州地区協議会・宮崎ブロック協議会、及び出向者への協力支援
7. 共催事業への協力支援
8. 会員拡大 [最重要]

創立60周年事業推進委員会

委員長 外村 純一

委員 小路 明洋 ・ 枇杷木 由香理 ・ 堀之内 航
又木 啓仁 ・ 三角 景志 ・ 森 春允

【サマリー】 (案)

一般社団法人都城青年会議所 2023年度 心躍る創立60周年運営グループ	
創立60周年事業推進委員会	
委員長 外村 純一	
設置背景	<p>1. 創立60周年事業例会の実施</p> <p>近年、スマートフォンや人工知能の活用(AI)など、科学技術は私たちの想像を絶するスピードで進化しています。また、グローバル化と多様化が加速しています。このような変化の激しい社会に対応するために子どもが将来「社会の中でよりよく生きていける力を養う」＝「自律した大人になる」ことがますます求められています。自律性がないと当事者意識がなく他人のせいにしてしまう、自己肯定感が低くなるといったことがおき、最終的に幸福度が低くなります。</p> <p>実際に、2022年に実施したユニセフの子ども幸福度調査では、精神的幸福度が日本は38か国中37位と非常に低い数字となっています。</p> <p>2020年の都城の子ども調査でも、将来の夢をもっている子どもは約50%、自分にはよいところがあると思う子どもは約30%しかおらず、自己肯定感の低い子どもが多いのが現状です。</p> <p>「社会の中でよりよく生きていける力」を養うために、子どもたちが最初に学ぶ場所が学校です。この学校での教育の目的を今一度大人たち(教育者や保護者、地域の人々)が理解し、子どもたちの学ぶ環境を整え、意識を変革していく必要があります。</p>
	<p>2. 創立60周年記念例会の実施</p> <p>都城青年会議所は、本年度創立60周年を迎えます。60周年を特別会員やこれまで私たちに関わっていただいたすべての皆様と共に盛大に祝いながら感謝の念を伝え、引き続き70周年に向けて青年会議所が市民意識変革運動を持続していけるよう、メンバー全員で青年会議所活動に邁進していく必要があります。</p>
	<p>3. 卒業式例会の実施</p> <p>都城青年会議所は40歳までの限られた時間の中で、メンバーそれぞれがひとのため、まちのために目標を掲げ、仕事や家庭を両立しながら活動しています。本年度で青年会議所活動を終え、これからも地域のために活動を続けるために新たな一歩を踏み出す卒業予定者とその家族に感謝の念を伝え青年会議所から送り出す必要があります。</p>
設置目的	<p>1. 創立60周年事業例会の実施</p> <p>都城圏域に住む子どもたちが、「社会の中でよりよく生きていける力」を身に付けられるように大人たちが教育に対して理解し、環境整備と意識を変革することを目的とします。</p>
	<p>2. 創立60周年記念例会の実施</p> <p>創立60周年を特別会員や県内各地の青年会議所メンバー、そしてこれまで私たちに関わっていただいたすべての皆様と共に祝い、都城青年会議所が地域課題解決に向けて活動していることを再認識してもらうことを目的とします。</p>
	<p>3. 卒業式例会の実施</p> <p>卒業予定者が青年会議所での活動に誇りを持って卒業できること、また支えてくれた家族に感謝を伝えられること、現役メンバーがその意志を継いで来年以降も活動していくことを目的とします。</p>
活動概要	1. 創立60周年事業例会の実施(4月)
	2. 創立60周年記念例会の実施(8月)
	3. 卒業式例会の実施(12月)

KGI (目標達成指標)	1. 創立 60 周年事業例会の実施 事業に関わる子どもたち全員(100%)が「社会の中でよりよく生きていける力」を身につける。
	2. 創立 60 周年記念例会の実施 該当なし
	3. 卒業式例会の実施 該当なし
KSF (KGI達成のポイント・プロセス)	1. 創立 60 周年事業例会の実施 教育関係者と子どもの保護者、地域住民の方々と共に日本教育の現状の把握。
	2. 創立 60 周年記念例会の実施 該当なし
	3. 卒業式例会の実施 該当なし
KPI (KGI達成のための中間指標)	1. 創立 60 周年事業例会の実施 事業に参加した大人全員(100%)が、これからの教育の在り方を理解し、意識を変える。
	2. 創立 60 周年記念例会の実施 該当なし
	3. 卒業式例会の実施 該当なし
SDGs	3 すべての人に健康と福祉を 4 質の高い教育をみんなに 11 住み続けられるまちづくりを 17 パートナースhipで目標を達成しよう
政策手法	1. 創立 60 周年事業例会の実施 ①検証方法：事業後アンケートの実施。 ②手 法：日本の教育の現状を知るための講師による講演。「つくるを通していきる」を学ぶワークショップの実施。
	2. 創立 60 周年記念例会の実施 ①検証方法：該当なし ②手 法：該当なし
	3. 卒業式例会の実施 ①検証方法：該当なし ②手 法：該当なし
パートナー	1. 創立 60 周年事業例会の実施 教育委員会、PTA、行政、講師
	2. 創立 60 周年記念例会の実施 特別会員
	3. 卒業式例会の実施 都城 JC シニアクラブ、卒業予定者の家族、パートナー、会社の方(卒業式に送り出してくれるという意味で)

【職務分掌】

1. 創立 60 周年事業例会
2. 創立 60 周年記念例会
3. 卒業式例会
4. 焼肉カーニバル支援窓口
5. 全国大会「東京」への参加企画
6. 日本本会・九州地区協議会・宮崎ブロック協議会、及び出向者への協力支援
7. 共催事業への協力支援
8. 会員拡大 [最重要]

地域活性化委員会

委員長 原 口 丈太郎
副委員長 森 山 陸 史
委員 榎 田 祐 介 ・ 神 脇 清 太 ・ 田ノ上 素 世

【サマリー】

一般社団法人都城青年会議所 2023 年度 心躍る地域活性グループ	
地域活性化委員会	
委員長 原口 丈太郎	
設置背景	1. 宮崎ブロック会長公式訪問例会の実施 公益社団法人 日本青年会議所 九州地区 宮崎ブロック協議会の役割と運動について LOM 内での認知を高めることで、一人ひとりが宮崎ブロックの一員であるという自覚を持ち、宮崎ブロック協議会の運動への積極的な参画意識を醸成する必要があります。
	2. 地域活性化例会「まちの中期ビジョン策定」の実施 これまで私たち都城青年会議所は、「明るい豊かな社会」の実現を目指し、今日に至るまで歩みを止めることなく数々の運動を展開してきました。しかしながら、この不変的ビジョンに着実に到達していくためには、現状の地域課題を包括的に抽出した上で、連続性のある課題解決に挑み続けなければなりません。そのためには、中期的スパンでの「ありたいまちの姿」=まちの中期ビジョンを策定する必要があります。
	3. 地域活性化例会「エシカルフェスタ」の開催 2022 年 9 月に発生した台風 14 号は、都城圏域にもこれまでにないほど甚大な被害をもたらしました。このような異常気象による災害が常態化、もしくは更に悪化していけば、産業やインフラに大きなダメージを与え、地域の持続可能性は著しく損なわれてしまいます。 持続可能な社会を目指す上で、生活者にできる取り組みの一つとして「エシカル消費」が挙げられます。エシカル (ethical) とは直訳すると「倫理的な」という意味です。 エシカル消費とは、地域の活性化や社会的弱者の雇用なども含む、人や社会・地球環境に配慮した消費行動を指します。「消費」という誰にとっても身近なアクションで出来る社会課題の解決策であり、同時に課題解決に取り組む事業者を支援することにもつながります。 今こそ、エシカル消費を通して、市民一人ひとりが持続可能な地域づくりのために何ができるかを考え、主体的な行動につなげていくことが出来る場を創出する必要があります。
	4. ベビーファースト運動の実施 日本の出生数は年々減少の一途を辿ってきましたが、長期化するコロナ禍の影響もあり 2022 年上半期 (1～6 月) は、前年同期と比べて 5.0%少ない 38 万 4942 人と、初めて 40 万人を下回りました。都城市においても出生数は過去 5 年間、前年比約 2%～4%ずつ減少を続けています。 少子化による将来的な人口減少は、国や地域の経済や社会保障制度、自治体の持続可能性など様々な分野に影響を及ぼします。 この現状を打破するためには、行政による子育て支援の拡充や法整備のみならず、私たち市民一人一人が乳幼児とその親を寛容に温かく見守る社会を形成していくことが不可欠です。
設置目的	1. 宮崎ブロック会長公式訪問例会の実施 宮崎ブロック協議会の役割と今年度の運動を知ることで、宮崎ブロック協議会主催の事業への積極的な参画意識を高めると共に、そこで得た学びを LOM の各種例会・事業や、会員拡大において発揮していくことを目的とします。
	2. 地域活性化例会「まちの中期ビジョン策定」の実施 まちの中期ビジョンを起点とした多様且つ連続性のある運動が展開されるようになることで、誰もが共感するまちの未来像を実現することを目的とします。
	3. 地域活性化例会「エシカルフェスタ」の開催 エシカル消費を通して、市民の間に人や社会、地球環境について主体的に考え、行動する機運が高まることで、都城圏域を南九州のエシカル中心地として活性化させることを目的とします。
	4. ベビーファースト運動の実施 行政と企業によるベビーファースト宣言を通して、乳幼児とその親を寛容に温かく見守る機運を高めることで、子供を産み育てやすい地域社会を作ることを目的とします。
活動概要	1. 宮崎ブロック会長公式訪問例会を実施します。
	2. まちの中期ビジョンを策定します。
	3. 「エシカル」を切り口に、人や社会、地球環境の課題解決につながる事業を実施します。
	4. ベビーファースト運動を実施します。
KGI (目標達成指標)	1. 宮崎ブロック会長公式訪問例会の実施 該当なし
	2. 地域活性化例会「まちの中期ビジョン」の策定 2027 年度までの事業を通して、策定したまちの中期ビジョンの達成率 100%

	3. 地域活性化例会「エシカルフェスタの開催」 エシカル消費を週5日以上、一日の大半の消費行動において実践している市民の割合、30%以上。
	4. ベビーファースト運動の実施 ベビーファースト宣言を実施した行政・企業による、宣言にもとづく具体的取り組みの実施率 100%
K S F (KGI達成のポイント・プロセス)	1. 宮崎ブロック会長公式訪問例会の実施 該当なし
	2. 地域活性化例会「まちの中期ビジョン」の策定 都城圏域の地域課題抽出
	3. 地域活性化例会「エシカルフェスタ」の開催 出店店舗、学生、各団体とのパートナーシップ
	4. ベビーファースト運動の実施 行政のベビーファースト宣言
K P I (KGI達成のための中間指標)	1. 宮崎ブロック会長公式訪問例会の実施 該当なし
	2. 地域活性化例会「まちの中期ビジョン」の策定 事業後アンケートにて「まちの中期ビジョンをもとにJC運動を展開していきたい」との回答、80%
	3. 地域活性化例会「エシカルフェスタ」の開催 対内・対外アンケートにて「これからもエシカル消費を実践していきたい」との回答、80%以上。
	4. ベビーファースト運動の実施 圏域自治体（都城市、三股町、曾於市）のベビーファースト宣言、ベビーファースト運動賛同企業 30 社。
S D G s	1 貧困をなくそう 5 ジェンダー平等を実現しよう 8 働きがいも経済成長も 10 人や国の不平等をなくそう 12 つくる責任 つかう責任 14 海の豊かさを守ろう 15 陸の豊かさを守ろう 17 パートナーシップで目標を達成しよう
政策手法	1. 宮崎ブロック会長公式訪問例会の実施 ①検証方法:該当なし ②手 法:該当なし
	2. 地域活性化例会「まちの中期ビジョン策定」の実施 ①検証方法:例会後にアンケートを実施。 ②手 法:地域の各分野における専門家・有識者をお招きし、テーマ毎に JC メンバーとグループディスカッション。テーマごとのビジョンを JC メンバー、パートナーと共に描く。
	3. 地域活性化例会「エシカルフェスタ」の開催 ①検証方法:事業時に対外、事業後に対内アンケートを実施。 ②手 法:エシカルマルシェの開催、ワークショップ、展示、トークライブ。
	4. ベビーファースト運動の実施 ①検証方法:宣言を行った自治体、企業を随時集計していく。 ②手 法:行政、企業による「ベビーファースト宣言」。
パートナー	1. 公益社団法人日本青年会議所九州地区宮崎ブロック協議会
	2. 圏域の様々な分野の専門家・有識者
	3. 出店店舗、学生、圏域各団体
	4. 都城市、三股町、曾於市、圏域企業

【職務分掌】

1. 宮崎ブロック会長公式訪問例会
2. 地域活性化例会
3. 地域活性化例会「中長期ビジョンの策定」
4. ベビーファースト運動の推進
5. 花火大会支援窓口
6. 北嶺山青年会議所との交流窓口
7. JC フェスタ 2023in 西都（第 49 回宮崎ブロック大会）の参加企画
8. 日本本会・九州地区協議会・宮崎ブロック協議会、及び出向者への協力支援
9. 共催事業への協力支援
10. 会員拡大 [最重要]

太 鼓 部 会

部副運	会幹幹	長	太	・	岩	満	高	介	・	岩	元	隆	道	・	内	村	卓	哉
運	幹	事	樹	・	川	田	友	匠	・	黒	木	裕	二	・	國	分	葉	月
会	計	員	洋	・	下	徳	尚	樹	・	田	上	素	世	・	築	地	史	次
部	会		太	・	常	盤	成	揮	・	東	郷	和	利	・	外	村	純	一
			也	・	拜	木	佳	太	・	原	口	丈	郎	・	東	迫	紀	憲
			介	・	堀	内		航	・	又	木	啓	仁	・	丸	山	亮	馬
			将	・	宮	脇		亨	・	森		春	允	・	山	本	勇	介
			宝	・	津	之			・			太		・				
			弘	・	西	杷			・					・				
			理	・	枇	木			・					・				
			志	・	三	角			・					・				

※ 上記以外の正会員で太鼓部会の趣旨に賛同される方

【基本方針】

都城青年会議所太鼓部会のここ数年における変化として、コロナ禍の影響による演奏機会の減少、それに伴う参加呼びかけの頻度低下や未経験者の苦手意識等による参加率低下、加えて経験豊富だったメンバーが卒業なされて演奏できるメンバーが減少したことで、これまでの演奏楽曲を引き継いでいくことが難しくなりつつあります。伝統ある太鼓部会を継承していくために、より多くの参加者を呼び込むこと、そして十分なクオリティにて演奏できるメンバーを増やしていくことが重要となります。

2023年度の太鼓部会は、これまでも課題として挙げられている参加率の上昇に加え、今後の太鼓部会を存続出来る様にする為に、ソロパートまで演奏可能な部会員の拡大を目標とします。もちろん、漠然と練習だけを行うということであれば従来通りの顔ぶれが変わらない状況になることが目に見えていますので、入会期間の浅いメンバーへの声かけや交流の場を設けるなど新しいメンバーの参加を推進していきます。また、参加推進に関して太鼓部会単独で動いても参加率が上がりにくいところを見てきたため、他部会との積極的交流や各委員会との連携を図ることでより多くの参加機会を創出していき、活発な運動へ押し進めることが大事です。そして過去に作成された映像などを活用することで、太鼓の基本リズムを全ての部会員が自信をもって演奏できることを目指し、さらに各パート別の映像作成を進めることで、これまで太鼓部会を支えているメンバーが卒業した後でも新たなメンバーがJ C太鼓ならではのリズムと演奏する楽しさを継承していき、部会が存続するための一助とします。また、活動においては、現在出演をさせていただいている焼肉カーニバルや、コロナ禍以前に参加させていただきました歴史と伝統のある盆地まつりを中心に、六月灯などの地域行事及び出演依頼を頂けるイベントにおいて積極的な参加を行うことで、青年会議所活動の覇気ある姿をアピールすると共に、地域の方々へ活気を与えます。

「都城JC太鼓」という名のこれまで先輩方より受け継がれてきた気概と情熱を強固に保ち、かつての活気溢れる部会へ復興させるとともに、新しい形式も取り込み参加し易い部会へ進化させることで、これからのLOM活動全体の成長に繋げられる部会へと邁進します。

【事業計画】

1. 既存メンバーの技術力向上、太鼓未経験者や新規会員への指導
2. 盆地まつり・焼肉カーニバルなどのイベントや地域行事への積極的参加
3. 太鼓を通じたメンバー間の交流、及び先輩方や他団体との交流

2023年度全体収支予算書（案）

<収入の部>

	項 目	2023年度予算	2022年度予算	備 考
会費	正会員	3,960,000	4,800,000	33名×年会費12万円
	新入会員	1,200,000	1,200,000	20名加入×年会費6万円を想定
	入会金	400,000	400,000	20名加入を想定×2万円
	特別会員	330,000	300,000	2022年度卒業生11名×3万円
	賛助会員	10,000	10,000	1名×1万円
事業収入	事業登録料収入	19,000	260,000	地域活性化事業出店登録料
	懇親会登録料収入	1,735,000	0	60周年記念例会、卒業式
	寄付金収入	400,000	400,000	シニア会より40万円
	販売収入	2,610,000	0	60周年・総務・チケット収入
	広告料収入	0	0	
	その他事業雑収入	0	0	
補助金収入	補助金収入	0	0	
雑収入	預かり金収入	0	0	
	受取利息	0	1,000	
	雑収入	0	0	
	60周年関連収入	1,400,000	0	シニア50万円、PPC10万円、積立80万円
① 合 計		12,064,000	7,371,000	

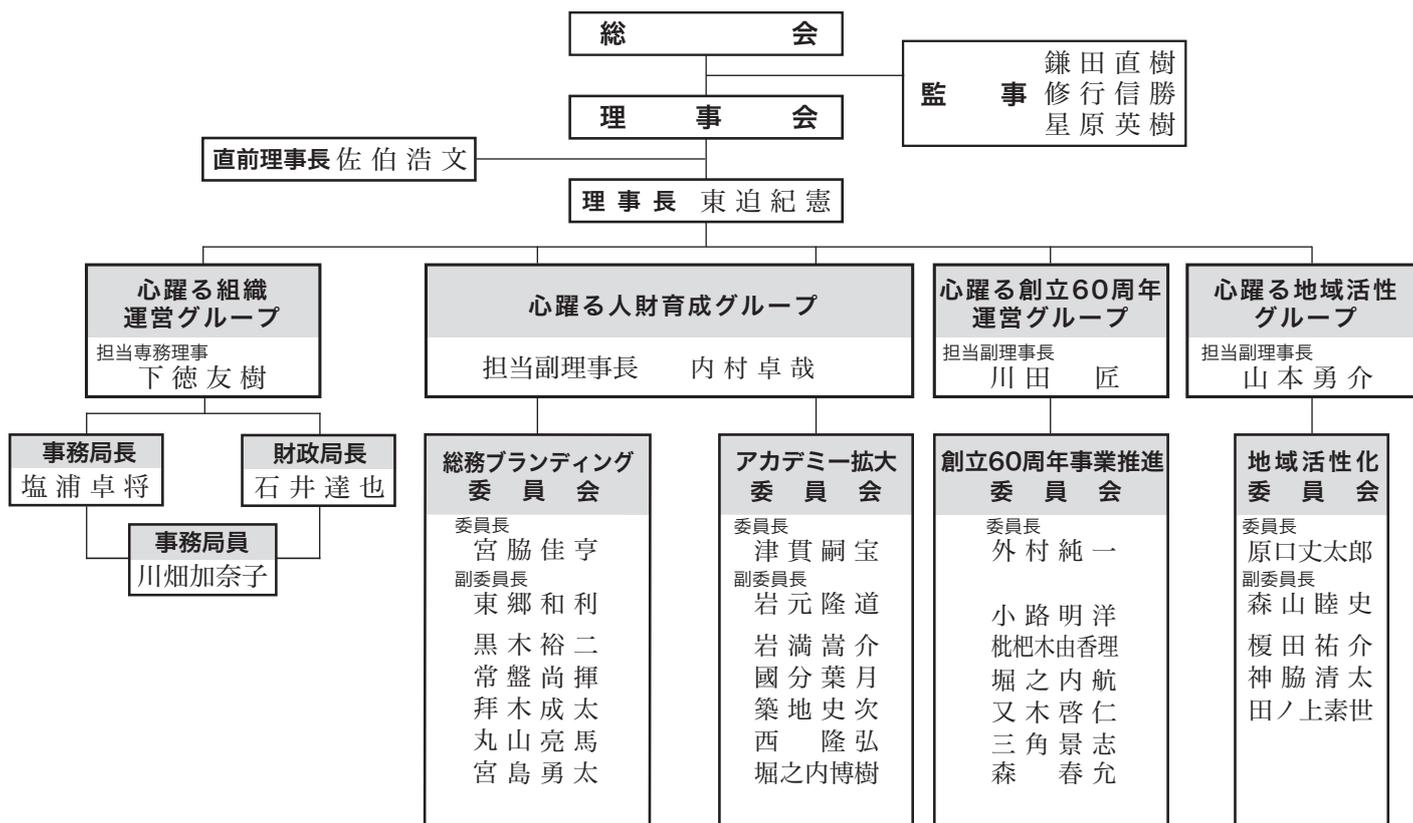
<支出の部>

	項 目	2023年度予算	2022年度予算	備 考
負担金	JCI	67,639	78,650	(33+10名)×1,573円
	日本JC	245,000	280,000	((33+10名)×5,000円)+30,000円
	機関誌	129,000	150,000	(33+10名)×3,000円
	地区協議会	172,000	200,000	(33+10名)×(2,000円+2,000円)
	ブロック協議会	321,000	370,000	(33+10名)×(4,000円+3,000円)+20,000円
	国際協力基金	78,475	91,250	(33+10名)×1,825円
	日本JC出向者負担金	0	0	0名×20,000円
小 計		1,013,114	1,169,900	
事務局	事務局維持費	1,080,000	1,080,000	IT産業ビル使用料 88,000×12ヶ月+2,000×(12ヶ月分)
	事務局員費	1,123,200	900,000	給与(12ヶ月分)
	事務局員交通費	32,000	32,000	交通費×(12ヶ月分)
	法定福利費	16,000	11,000	雇用保険料×(12ヶ月分)
	通信費	180,000	180,000	電話、FAX、切手、ネット使用料等
	印刷費	200,000	200,000	コピー機リース代、カウンター代等
	消耗品費	100,000	100,000	
	資産管理費	143,000	143,000	太鼓一式保管料+保険料
	寄付金	100,000	100,000	島津、盆地、花火
	雑費	250,000	250,000	ネットバンキング、送料、振込手数料等
小 計		3,224,200	2,996,000	
会議費	総会費	457,000	421,000	通常総会・7月総会
	育LOM推進費	50,000	50,000	環境整備費
小 計		507,000	471,000	
収 支		▲ 7,938,940		

	概算
2023年度 収入	1206万円
2023年度 支出(固定費)	687万円
2023年度 支出(事業費)	663万円
合計	▲144万円
※60周年 積立・寄付	140万円(内訳:シニア50万円、PPC10万円、積立80万円)
<参考>	

	項 目	2023年度予算	2022年度予算	備 考
委員会事業費	総務ブランディング委員会	497,000	61,000	9月総務ブランディング例会
	創立60周年事業推進委員会(卒業式)	1,094,000	621,000	12月卒業式例会
	拡大アカデミー委員会	372,000	895,000	3月、6月、10月例会
	地域活性化委員会	774,000	1,039,000	宮崎ブロック会長公式訪問例会、まちの中期ビジョンの策定例会、エンカルフェスタ、ベビーファースト運動
	60周年実行委員会(記念式典・事業)	3,888,000	324,000	4月60周年事業例会、8月60周年記念例会
	小 計	6,625,000	2,940,000	
預かり金支出	預かり金	0	0	
	小 計	0	0	
事業費	事業推進費	1,000,000	1,200,000	その他事業等
	関連事業参加推進費	20,000	20,000	資料作成、案内FAX
	太鼓部会活動費	30,000	512,000	ガルーン案内の為
	野球部会活動費	10,000	10,000	大会登録料
	サッカー部会活動費	50,000	50,000	大会登録料
	小 計	1,110,000	1,792,000	
渉外費	旅費	250,000	250,000	日本青年会議所総会等
	渉外費	400,000	300,000	北嶺山交流費、他団体への会費等
	慶弔費	150,000	150,000	
	小 計	800,000	700,000	
特定費用準備費	地域活性化事業積立支出	0	500,000	65周年記念事業費としての積立
	その他積立	0	0	
	小 計	0	500,000	
管理費支出	法人県民税	21,000	21,000	
	法人手続費	190,000	190,000	登記関連
	小 計	211,000	211,000	
予備費	予備費	6,512,626	4,819,372	
	小 計	6,512,626	4,819,372	
	② 合 計	20,002,940	15,599,272	
当年度収支差額①-②		▲ 7,938,940	▲ 8,228,272	
前年度繰越収支差額		7,938,940	8,228,272	
次年度繰越収支差額		0	0	

一般社団法人 都城青年会議所 2023年度組織図



一般社団法人 都城青年会議所 2023年度 出向者一覧表(案)

■公益社団法人日本青年会議所
九州地区 宮崎ブロック協議会
地域連携グループ

担当副会長 山本 勇介

LOM支援連携グループ
組織力強化委員会

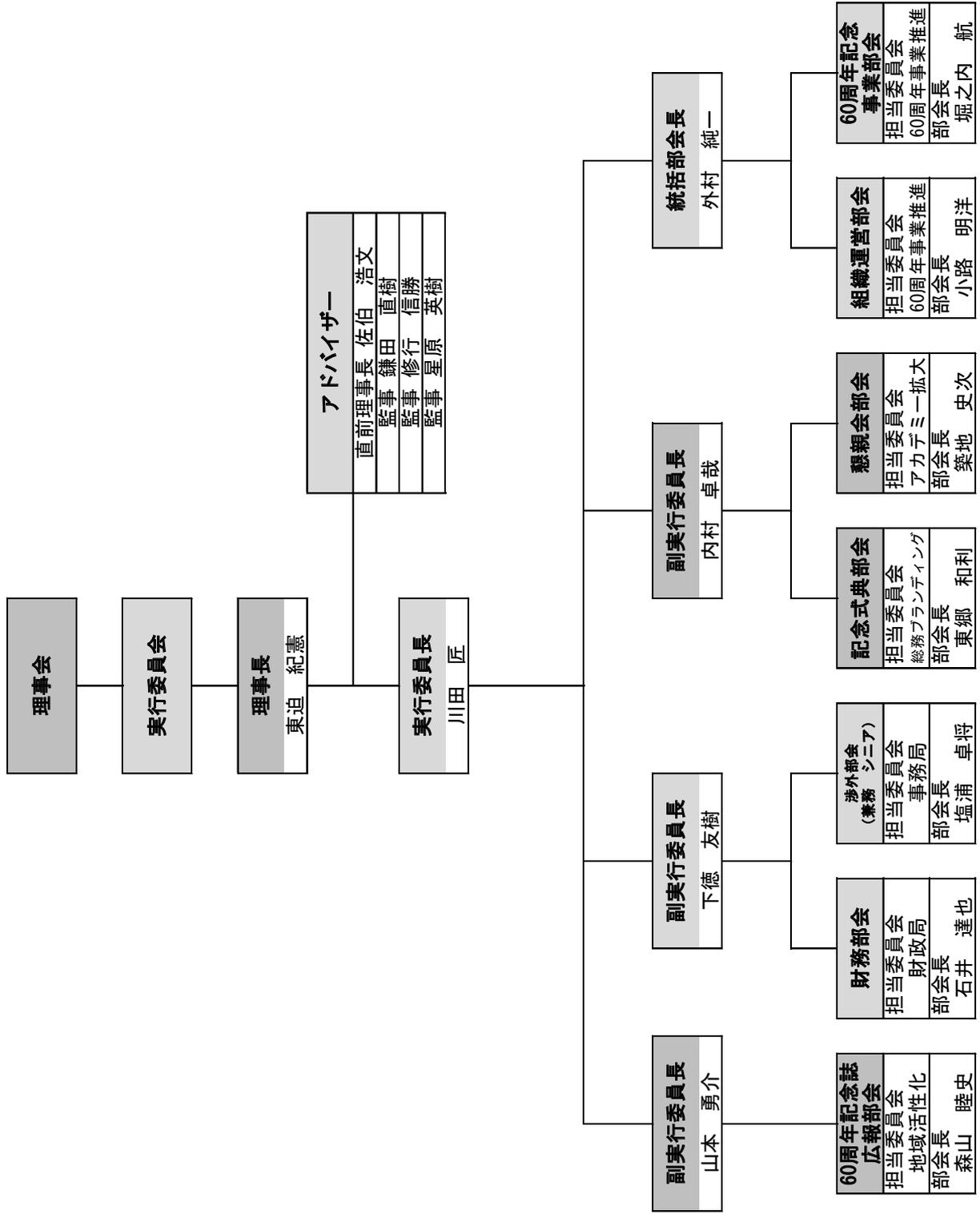
委員長 拜木 成太

副委員長 丸山 亮馬

LOM支援連携グループ
組織力強化委員会

委員 神脇 清太
委員 黒木 裕二
委員 國分 葉月
委員 塩浦 卓将
委員 築地 史次
委員 東郷 和利
委員 外村 純一
委員 宮脇 佳亨
委員 森 春允
委員 森山 睦史

一般社団法人都城青年会議所 2023 年度 創立 60 周年事業実行委員会 組織図



顧 問 御 芳 名

都 城 市 長 池 田 宜 永 殿
都 城 市 議 会 議 長 長 友 潤 治 殿
都 城 商 工 會 議 所 會 頭 安 田 耕 一 殿

都城青年會議所 (265号)

創 立 年 月 日 1964年02月26日 (昭和39年)
日 本 J C 入 会 承 認 日 1964年07月25日 (昭和39年)
認 承 証 伝 達 式 1965年04月11日 (昭和40年)
社 団 法 人 設 立 許 可 日 1973年02月15日 (昭和48年)
公 益 社 団 法 人 移 行 登 記 日 2012年04月01日 (平成24年)
一 般 社 団 法 人 移 行 日 2018年12月28日 (平成30年)

都城JC歴代理事長名

初代理事長 (S39年)	宮 永 家 昌	31代理事長 (H6年)	百 井 正 雄
2代理事長 (S40年)	宮 永 家 昌	32代理事長 (H7年)	福 崎 順 久
3代理事長 (S41年)	黒 岩 常 善	33代理事長 (H8年)	黒 木 圭一郎
4代理事長 (S42年)	外 山 勝	34代理事長 (H9年)	中 村 公 成
5代理事長 (S43年)	南 崎 洋 史	35代理事長 (H10年)	金 澤 紳 一
6代理事長 (S44年)	江 夏 眞 也	36代理事長 (H11年)	戸 高 望
7代理事長 (S45年)	水 間 久 之 孝	37代理事長 (H12年)	江 夏 祥一郎
8代理事長 (S46年)	佐 藤 孝	38代理事長 (H13年)	奥 津 貞一郎
9代理事長 (S47年)	岩 淵 光 男	39代理事長 (H14年)	河 東 光 浩
10代理事長 (S48年)	野 口 富 弘	40代理事長 (H15年)	川 畑 勇一郎
11代理事長 (S49年)	中 村 利 吉	41代理事長 (H16年)	仙 波 英 泰
12代理事長 (S50年)	木 脇 義 貴	42代理事長 (H17年)	堀 内 正 太郎
13代理事長 (S51年)	園 田 道 雄	43代理事長 (H18年)	東 郷 研 哉
14代理事長 (S52年)	緒 方 洵	44代理事長 (H19年)	富 賀 見 聡
15代理事長 (S53年)	瀬 戸 山 由 勝	45代理事長 (H20年)	倉 園 政 彦
16代理事長 (S54年)	佐 々 木 鴻 昭	46代理事長 (H21年)	中 原 正 暢
17代理事長 (S55年)	木 脇 義 紹	47代理事長 (H22年)	木 脇 桂 太郎
18代理事長 (S56年)	上 石 洋 伺	48代理事長 (H23年)	中 村 崇 志
19代理事長 (S57年)	園 田 征 利	49代理事長 (H24年)	畑 中 伸 志
20代理事長 (S58年)	大 浦 克 博	50代理事長 (H25年)	山 崎 忠 芳
21代理事長 (S59年)	間 和 輝	51代理事長 (H26年)	堀之内 秀一郎
22代理事長 (S60年)	吉 原 正 和	52代理事長 (H27年)	瀬 尾 典 史
23代理事長 (S61年)	堀之内 芳 久	53代理事長 (H28年)	真 方 誠 也
24代理事長 (S62年)	江 夏 拓 三	54代理事長 (H29年)	吉 原 政 秀
25代理事長 (S63年)	蔵 屋 保	55代理事長 (H30年)	柳 田 將 伸
26代理事長 (H元年)	吉 原 和 雄	56代理事長 (H31年)	山 口 晋 平
27代理事長 (H2年)	佐 伯 浩一郎	57代理事長 (R2年)	入 木 田 智 聡
28代理事長 (H3年)	東 篤 徳	58代理事長 (R3年)	上 村 一
29代理事長 (H4年)	伊 久 良 和 彦	59代理事長 (R4年)	佐 伯 浩 文
30代理事長 (H5年)	田 中 義 昭		

編集者

2023年度
心躍る人財育成グループ
総務ブランディング委員会

委員長：宮脇佳亨

副委員長：東郷和利

委員：黒木裕二

常盤尚揮

拜木成太

丸山亮馬

宮島勇太

URL <http://miyakonojo-jc.com>

E-mail info@miyakonojo-jc.com
